



# TAKEDA iP CSR REPORT

竹田iP CSRレポート 2023



TAKEDA iP HOLDINGS



里山を荒らすことから、今や“竹害”とまで言われる竹。その竹を持続的に大量に使うことで社会的課題の解決を図る、日本の竹100%の紙を採用しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



コミュニケーション・オン・プログレス

国連グローバル・コンパクトの原則の実践状況および国連の様々な目標の支持について、このコミュニケーション・オン・プログレスを通じて報告しています。

内容に関するご感想・ご意見を歓迎します。



竹田iPグループは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人たちが見やすいような配慮や表示をしました。

竹田 iP ホールディングス株式会社

〒466-0058 名古屋市昭和区白金一丁目11番10号  
<https://www.takedaip-hd.co.jp>

# INDEX

- 1 編集方針
- 2 トップメッセージ
- 6 会社概要
- 7 事業セグメント、役員一覧
- 8 財務・非財務ハイライト
- 10 竹田iPグループのサステナビリティ
- 12 SDGsへの取り組み
  - SDGs Topics
  - 地域社会とともに
  - ～竹田印刷(株)の取り組み～
- 14 組織統治
  - コーポレート・ガバナンス
- 18 株主・投資家の皆様とともに
- 19 消費者課題
  - お客様とともに
- 22 人権・労働慣行
  - 人権・人材の取り組み
- 23 ダイバーシティの推進
- 24 多様な人材の活躍を支援する制度・取り組み
- 26 労働安全と健康経営
- 28 人材開発・育成
- 29 公正な事業慣行
  - サプライヤーの皆様とともに
- 30 環境
  - 環境活動
  - マネジメントシステムの状況
  - 環境保全の状況
- 32 環境保全活動の推進

## 掲載項目の確定プロセス

本レポートに掲載されている項目は、以下のプロセスで確定しました。

### STEP 1 活動の洗い出し

編集委員が中心となって2022年度における当社のCSR活動の洗い出しを行いました。

### STEP 2 活動実績のリストアップ

当社の外部および内部の状況や「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」<sup>※1</sup>の4分野10原則、GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード」<sup>※2</sup>の開示項目、SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」<sup>※3</sup>の目標を参考に活動実績のリストアップを行いました。

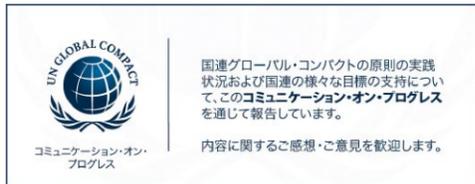
### STEP 3 掲載項目の選び出し

2022年度の活動実績および国連グローバル・コンパクトの原則、GRIスタンダードの開示項目、SDGsの目標の中から、当社にとって重要と思われる事項を選び出しました。

### STEP 4 CSRレポートの発行

掲載情報がすべて確定した段階で、経営統括本部長、社長、会長の承認を得て、レポートを発行しています。

※1: 国連グローバル・コンパクト(UNGC)  
国連グローバル・コンパクト(UNGC)は、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組み。



※2: GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード」  
GRI(Global Reporting Initiative)は、組織の非財務情報の報告に関する国際基準を策定するNGO。「GRIスタンダード」は、経済、環境、社会に与えるインパクトなどの報告に利用する基準指標。

※3: SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」  
ミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成された国際目標。



## 編集方針

2023年4月1日、竹田印刷株式会社は「竹田iPホールディングス株式会社」へ社名を変更し、持株会社体制に移行いたしました。なお竹田印刷株式会社の社名につきましては、新たに事業会社として継承しています。

本レポートでは持株会社体制移行前の2022年度における竹田印刷株式会社のCSRに関する取り組みを中心に、一部事業会社や竹田iPグループとしての取り組みを掲載

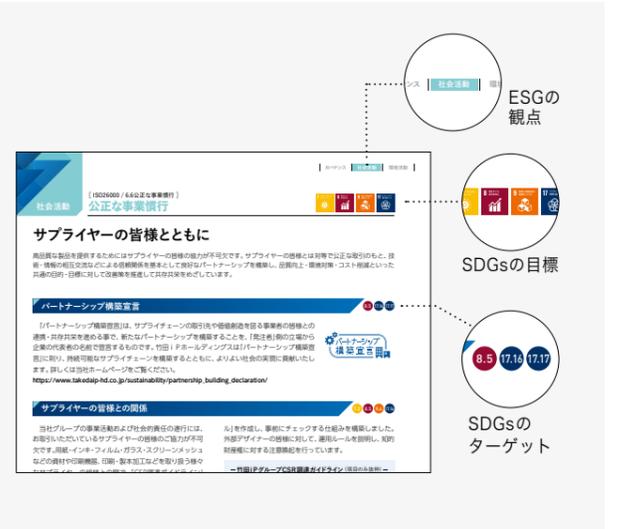
### 紙面の構成

- 各項目のトピラにあるアイコンは、それぞれの項目に関連したSDGsの目標を示しています。
- 見出しにある番号は、その本文に関連したSDGsのターゲットを示しています。
- ESG<sup>※4</sup>への取り組みはページ上部の色帯で示しています。

※4: ESG  
ESGとは、環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字を取ったもの。企業経営や成長において、各々の観点を持った上での配慮が必要だという考え方。

していますが、事業会社名については、持株会社体制移行後の社名に統一させていただいております。

新しい体制となった当社グループの取り組みについて、ステークホルダーの皆様にご理解いただくために制作・発行いたしましたので、是非ご一読いただきご意見・ご感想をいただければ幸いです。



### 報告対象組織

竹田iPホールディングス株式会社  
(一部、竹田iPグループの各事業会社の情報も含んでいます。)

### 報告対象期間

2022年4月1日～2023年3月31日  
(一部、期間外の情報も含んでいます。)

### 参考にしたガイドライン

国連グローバル・コンパクト(UNGC)  
SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」  
GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード」  
ISO26000(社会的責任に関する手引)

### 発行時期

2023年8月(前回発行 2022年7月 毎年発行)

### お問合せ先

竹田iPホールディングス株式会社  
経営統括本部 総務部  
TEL: 052-871-6351

### 免責事項

本レポートには、竹田iPホールディングスおよび竹田iPグループの過去と現在の事実だけでなく、公開日時点における計画や見通し、経営方針・経営戦略に基づいた将来予測が含まれています。諸条件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があることをあらかじめご承知おきください。

※本レポートは、「IRイベント」「会社説明会」などで配布するほか、当社ホームページでも閲覧できます。  
※本レポートで、当社活動の中で重要と思われる部分については、前年からの修正再記述となっています。  
※当社に関する情報は、本レポートのほか当社ホームページでも閲覧できます。

ホームページ  
<https://www.takedaip-hd.co.jp/>

# 情熱と革新の未来へ。

Passion for innovation

2023年4月1日、竹田印刷株式会社は「竹田 i P ホールディングス株式会社」へ社名を変更し、持株会社体制に移行いたしました。

皆様のごこれまでのご支援に厚く感謝を申し上げますとともに、今後の竹田 i P グループにご期待いただき、さらなるご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

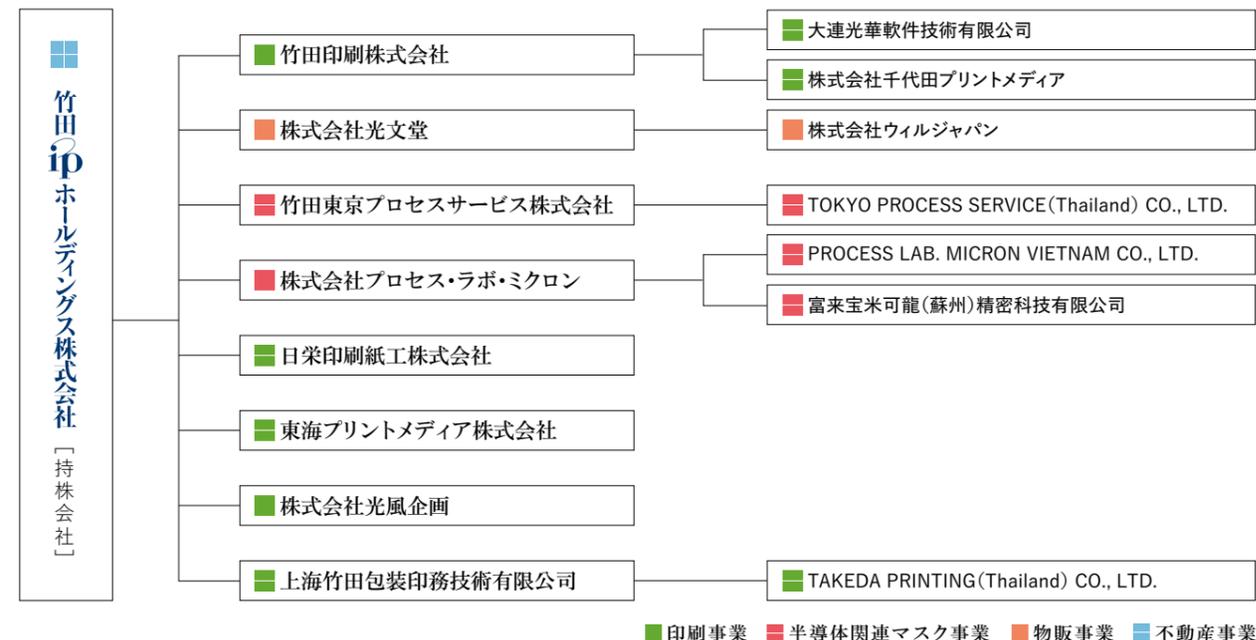


代表取締役会長 CEO

山本 真一

代表取締役社長 COO

木全 幸治



2022年度は新型コロナウイルス感染症による社会経済活動への制限が緩和され、国内経済は持ち直しの兆しが見られましたが、ウクライナ情勢の長期化等によるエネルギー価格や原材料価格の高騰、為替市場での円安傾向が継続し、不透明な状況で推移いたしました。

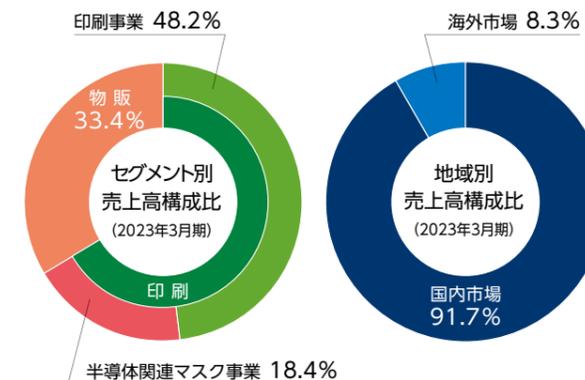
このような状況のなか、当社グループの2023年3月期の業績は、連結売上高328億63百万円、営業利益9億39百万円となり、増収増益となりました。売上高では、デジタル化の進展による国内印刷市場の縮小にエネルギー価格や原材料価格の高騰も重なり、大変厳しい状況が続いておりますが、広告宣伝需要や設備投資需要に回復が見られ、印刷事業と物販事業で増収となりました。半導体関連マスク事業では、巣ごもり需要に服感が見られたほか、米中貿易摩擦による影響が昨年末から顕在

化し、世界半導体市場が急激に冷え込んだため、減速を余儀なくされました。利益面では増収効果に加えて、印刷事業ではワンストップソリューションによる付加価値提案、物販事業では利益率の高い自社ブランド製品の販売を強化した結果、増益となりました。

セグメント別の売上構成比としては、半導体関連マスク事業が約2割を占めており、印刷事業と物販事業を補完しています。この相互補完の事業構造こそ、この厳しい印刷業界において経営を維持できている要因だと考えています。

また地域別の売上構成比としては国内市場が中心ですが、半導体関連マスク事業では海外事業を強化しており、また海外でのパッケージ印刷の拡大、海外子会社の増加により、今後とも海外市場は拡大傾向にあります。

竹田 i P グループ 売上高と営業利益の推移



## I 持株会社体制への移行について

国内印刷市場は厳しい状況が続いており、当社グループはコア事業における競争力の強化、新事業開発の強化、事業活動を支える経営基盤の強化という3つの改革を掲げ、事業構造改革を進めています。また、当社グループではサステナビリティ経営を推進するため、「竹田 i P グループサステナビリティに関する方針」を策定し、「お客様の課題解決を通じて広く社会に貢献すること」を当社グループの使命として位置付けています。

当社グループがこの厳しい経営環境から脱却して持続的成長を実現し、持続可能な社会の実現に貢献していくためには、事業構造改革のスピード感を高め、さらなる成長加速と事業拡大による強固な収益基盤を構築することが急務となっています。その実現に向けた最善の方法として、持株会社体制への移行を決断いたしました。

なお、今回の体制移行に伴いまして、これまで当社が営んでおりました印刷事業は「竹田印刷株式会社」(2023年4月1日付けで竹田印刷分割準備株式会社より商号変更)が、同じく半導体関連マスク事業は「竹田東京プロセスサービス株式会社」(2023年4月1日付けで東京プロセスサービス株式会社より商号変更)が承継いたしました。

### 持株会社体制へ移行した目的

1. **グループ一体経営の実現**  
持株会社にグループの成長戦略と経営管理の機能を集約してリーダーシップを発揮し、グループ全体最適での経営戦略の立案と意思決定を行います。
2. **グループ経営資源配分の最適化**  
経営資源の再配分と横断的活用を図ることにより、経営資源配分の最適化によるグループシナジーの最大化をめざします。
3. **意思決定の迅速化**  
持株会社がグループ経営に特化するとともに、事業会社への権限移譲を進めます。事業会社では、各社の実状に則し、意思決定の迅速化を図ります。
4. **事業構造の再構築**  
事業ポートフォリオの改革を進めます。高収益事業への事業転換、多角化の推進、新規事業の開発、M&A戦略の推進など、事業構造の再構築を図ります。

## I 事業構造改革に向けて、スピードを一層高める

### コア事業の強化について

印刷事業では、印刷物の提供により、お客様の広告宣伝活動を支援する従来型のビジネスモデルから領域を広げ、印刷物に限らない様々なソリューションを複合的に組み合わせ合わせたワンストップソリューションの提供により、お客様の課題解決を総合的に支援するビジネスパートナーへ、ビジネスモデルの転換を進めています。

紙媒体の需要を着実に取り込みつつ、当社グループの制作体制、情報セキュリティ体制、システム構築力を駆使し、ロジスティクスや各種BPO受託、WEB・システムや動画などのデジタル媒体の制作などを強化しています。当社グループにこれらの業務を一括で依頼することにより、お客様における業務改善につながり、大変高い評価をいただいています。このwin-winの関係性を築くことができるのがロイヤルカスタマーであり、その実現のキーワードが「ワンストップソリューション」です。



半導体関連マスク事業では、グループシナジーが発揮され始めています。マスクメーカーの多くは、技術革新の速さに対応するための設備投資負担が大きいため、得意分野に特化する傾向がありますが、当社グループでは、「竹田東京プロセスサービス株式会社」「株式会社プロセス・ラボ・ミクロン」の国内2社、そして中国と東南アジアに展開する海外3社が連携し、「フォトマスク」「スクリーンマスク」「メタルマスク」など得意分野を補完しています。そのため、お客様の幅広いニーズにお応えすることができ、マスク製造では業界トップシェアを誇っています。

そして、設計から製造までの一貫生産体制、グループ間での人材交流や共同研究開発、国内外に展開する生産拠点網による事業継続リスクの分散などにより、グループ全体最適とシナジーの最大化を今後も追求していきます。

物販事業では、印刷関連の機械や資材を販売しています。(株)光文堂は、印刷関連総合商社のリーディングカンパニーとして、日本全国に拠点を構え、幅広い商品ラインナップときめ細かな対応でお客様ニーズにお応えしています。

また、印刷機材の総合展示会「Print Doors (光文堂 新春

### 新事業開発の強化について

企業の働き方改革は今後も進むことが予想されており、当社グループはお客様におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進をビジネスチャンスとして捉えています。

**▶ TS-BASEシリーズ**  
お客様におけるDXを支援し、業務効率化とコスト削減を実現する受発注管理システムのクラウドサービス TS-BASE 受発注には、たいへん多くの引き合いをいただいております。2022年では、受発注・通販・物流の3つのシステムをシリーズ化し、物流の課題を解決するワンストップサービスとして確立するなど、サービスメニューの充実を継続しています。

**▶ Yomikatsu! (ヨミカツ)**  
これまでに培った社内報制作やデジタルマーケティングのノウハウを結集し、紙媒体の社内報のデザイン性をそのままに「見せる社内報」をコンセプトとするWeb社内報パッケージシステム「Yomikatsu! (ヨミカツ)」を開発し、販売を開始しました。

**▶ ロボシルバーク**  
コミュニケーションロボット「ロボホン」を活用した高齢者向けの介護レクリエーションアプリ「ロボシルバーク」を開発しました。これは神奈川県「さがみロボット産業特区」の取り組みである「公募型『ロボット実証実験支援事業』」に採択され、商品化されました。9種類(あいさつ、ダンス、歌、ゲーム・しりとり、絵あわせ、かるた、絵本、読み聞かせ、おりがみ)の機能により、施設職員によるレクリエーションの実施をサポートします。

今後もデジタル関連サービスの開発を強化し、お客様の課題解決をご支援してまいります。

半導体関連マスク事業

### グループ全体最適とシナジーの最大化

- ▶ 幅広いニーズに対応する設計から製造までの一貫生産体制
- ▶ グループ間での人材交流・情報共有・共同研究開発による課題解決
- ▶ 国内外に展開する生産拠点網による事業継続リスクの分散

**竹田東京  
プロセスサービス  
株式会社**  
[主製品]  
設計/フォトマスク  
スクリーンマスク

**株式会社  
プロセス・ラボ・ミクロン**  
[主製品]  
メタルマスク

持株会社体制への移行により、  
更なる高収益体質へのパワーアップ

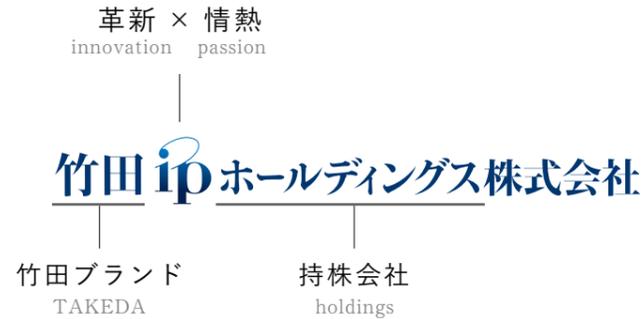
機材展)を主催するほか、全国各地で開催される販売促進イベントにも積極的に出展するなど、常に良質な情報発信を行い、お客様に選ばれ、頼りにされるサプライヤーとしての地位を確立しています。



社名の由来

長きにわたり培ってきた「竹田ブランド」を冠し、i Pには「持続可能な社会に貢献すべく、溢れるほどの情熱 (passion) をもって、革新 (innovation) しつづける」決意を込めました。

また、i Pは小文字と大文字の組み合わせとしており「異なる立場の者が共に新たな価値を創造する、コ・クリエーション (共創) の実現」を表現しています。



基本理念



会社概要

社名	竹田 i Pホールディングス株式会社 (証券コードNo.7875) (英訳名TAKEDA i P HOLDINGS CO., LTD.)	創業年月	1924年1月 (大正13年)
本社	〒466-0058 名古屋市昭和区白金一丁目11番10号 TEL (052) 871-6351 (代表)	設立年月日	1946年11月16日 (昭和21年)
		業務内容	グループ全体の経営方針策定・推進および経営管理 不動産の賃貸と管理運営
		決算期	3月31日
		資本金	19億3,792万円 (2023年4月1日現在)

事業セグメント

印刷事業

- 商業印刷を中心とする各種印刷物の企画・デザイン・印刷
- イベントプロモーション、事務局運営などの各種BPO受託
- Web・動画などのデジタルコンテンツ制作およびシステム構築
- ロジスティクスサービスの提供
- 文具・日用雑貨などのネット通販
- 各種ノベルティ製品の企画・販売
- 紙器類の製造およびラベル・シール類の印刷
- 日刊新聞印刷
- 広告宣伝物の企画・デザイン
- 中国における包装紙器類の企画・販売
- 中国における印刷用データの制作
- 包装用資材および印刷物の企画・製造・販売

半導体関連マスク事業

- 半導体関連各種マスクの設計および機械機器類の販売
- 電子部品等向けの精密工業用写真製板 (スクリーンマスク、フォトマスク) の製造販売
- 電子部品実装用各種マスクの製造およびこれに付随する業務

物販事業

- 製版機械・印刷機械・製本機械・印刷用資材・製版用資材の販売
- 電子看板に関する機器類の販売および賃貸
- 日用雑貨・事務用品および事務用機器等の企画開発・販売ならびに輸出入業務

不動産事業

- 不動産の賃貸と管理運営

役員一覧

取締役 (監査等委員である取締役を除く)



山本 眞一  
代表取締役会長 CEO



讃岐 秀昭  
専務取締役 CSO  
最高戦略責任者



細野 浩之  
常務取締役 CFO  
最高財務責任者



堀 龍之  
社外取締役



山本 光子  
社外取締役

監査等委員である取締役



古田 敦規  
取締役  
(監査等委員)

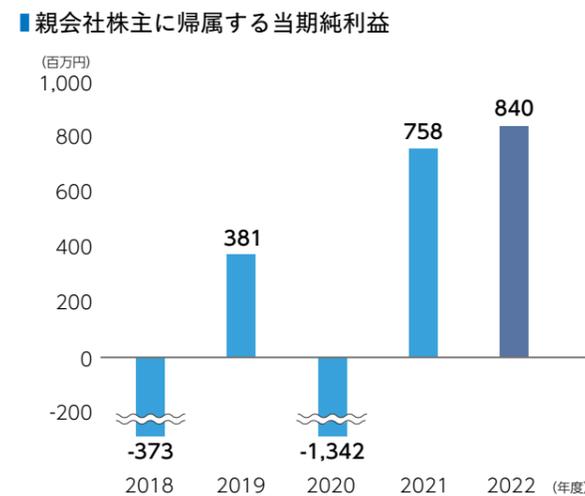
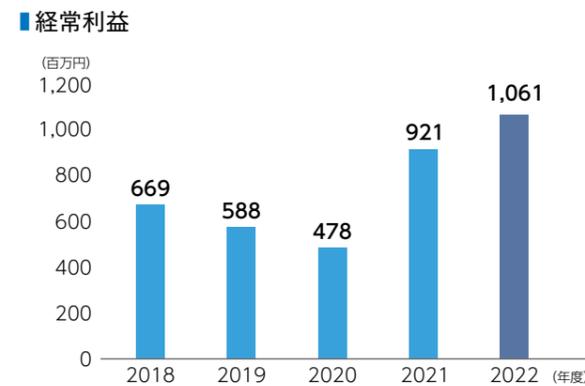
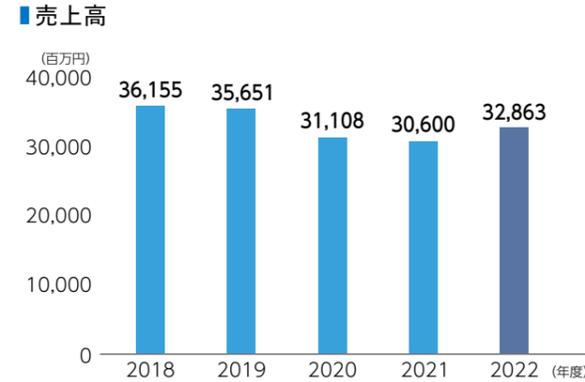


永田 昭夫  
社外取締役  
(監査等委員)



高橋 伸夫  
社外取締役  
(監査等委員)

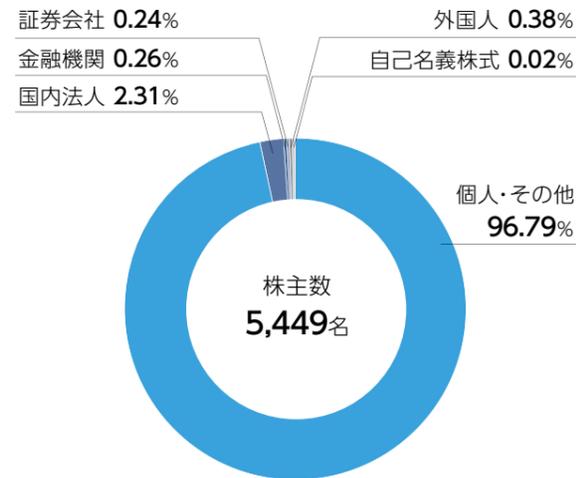
財務（連結）



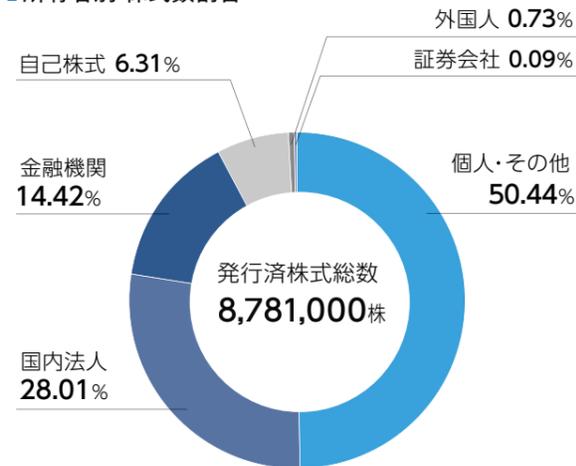
株式

発行可能株式総数 29,592,000株  
 発行株式総数 8,781,000株 (自己株式554,321株を含む)  
 株主数 5,449名

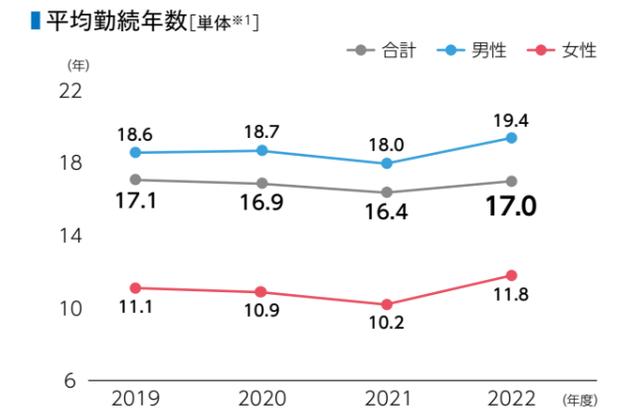
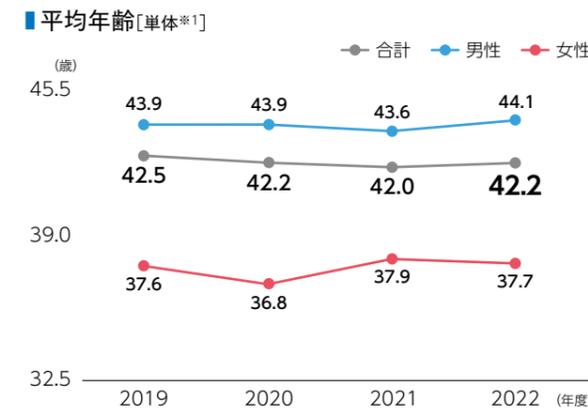
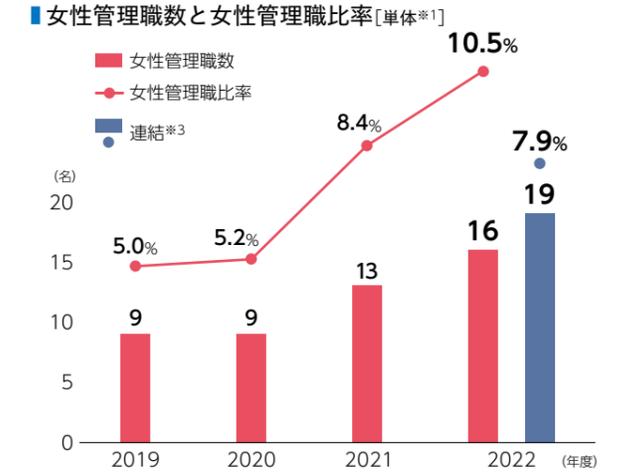
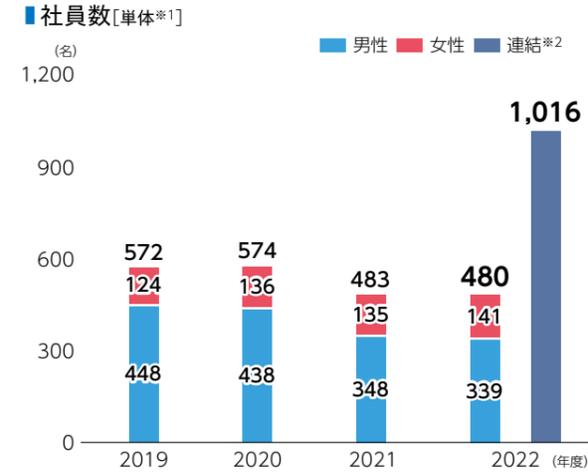
所有者別 株主数割合



所有者別 株式数割合

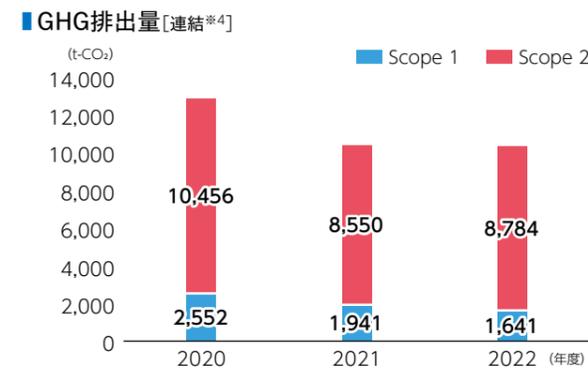


人材



\*1 持株会社移行前の竹田印刷(株)のデータ \*2 竹田 i Pグループ  
 \*3 国内主要会社5社の集計値(竹田 i Pホールディングス、竹田印刷、光文堂、竹田東京プロセスサービス、プロセス・ラボ・ミクロン)

環境



**Scope 1**  
 自社での燃料の使用や、工業プロセスによる直接的な排出

**Scope 2**  
 自社が購入した電気・熱等のエネルギーの使用に伴う間接的な排出

GHGとは…Greenhouse Gasの略  
 CO<sub>2</sub>などの温室効果ガスのこと

\*4 国内連結子会社の集計値 (竹田 i Pホールディングス、竹田印刷、光文堂、竹田東京プロセスサービス、プロセス・ラボ・ミクロン、日栄印刷紙工、東海プリントメディア、光風企画)

\*業績に関する詳しい内容は、当社ホームページの決算短信 (<https://www.takedaip-hd.co.jp/ir/library/>)、事業報告書 (<https://www.takedaip-hd.co.jp/ir/library/businessreport/>)に掲載しています。

# 竹田 i P グループのサステナビリティ

## サステナビリティ方針

2023年4月に、持株会社化に伴い新たに策定した当社グループにおけるサステナビリティの方針は、「経営の基本方針」である社是、「当社が存在する意義」である基本理念、「信頼される企業であり続けるために」との想いで定めた行動規範を実践することであると考えます。

### 社是（経営の基本方針）

熱意・和合・奉仕

### 基本理念（当社が存在する意義）

**Mission**：溢れるほどの情熱をもって、革新しつづける。

**Vision**：社会から信頼され、必要とされる存在に。

**Value**：1. 竹田 i P グループの総合力  
2. 心ある誠実な企業風土  
3. 相手に寄り添うサービス

**Spirit**：1. あらゆる可能性に挑戦せよ。  
2. いかなる時も思い遣りを持って。  
3. 粘り強く進め。  
4. 社会的課題を解決すべく学べ。  
5. 約束と法律を遵守せよ。

**Slogan**：情熱と革新の未来へ。

### 行動規範（信頼される企業であり続けるために）

コンプライアンスの実現のために：責任ある行動をしよう

顧客満足の実現のために：お客様に感謝しよう

働きがいのある企業風土づくりのために：仲良く朗らかに元気に働こう

グループの総合力発揮とさらなる発展のために：社連発展のためお互に協力しよう

よき企業市民となるために：よき家庭の一員となるよう

## 竹田 i P グループフィロソフィー（持続可能な社会の実現）

全員が共有して持つべき意識・価値観・考え方



## マテリアリティ（重要課題）

私たちは、「社是」「基本理念」「行動規範」に従い、当社の成長を通じて持続可能な社会の実現に貢献したいと考えています。そのため、2019年4月に国連グローバル・コンパクトに署名し、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンへ加入しました。国連グローバル・コンパクトが掲げる4分野10原則を支持し実行するため、SDGsで示されている社会的課題の解決や、ESG（環境・社会・ガバナンス）領域に率先して取り組み、全てのステークホルダーの皆様からの期待に積極的に対応していきます。当社グループの取り組みをより活性化させるために、このたび11個のマテリアリティ（重要課題）を決定しました。



そして、11個のマテリアリティ（重要課題）の関連性を「事業活動を通じた社会的課題の解決」と「社会的課題を解決に導く経営基盤の強化」に整理しました。



## マテリアリティ（重要課題）に対する取り組み

マテリアリティ（重要課題）に積極的に取り組むため、今後は事業戦略と連動した目標（施策・KPI）の具体化を竹田マネジメントシステムを通じて、進めてまいります。

項目	マテリアリティ（重要課題）	ESG	7つの中核課題 (ISO26000)	責任者	主な取り組み
事業活動を通じた社会的課題の解決	13 気候変動 15 陸域生態系保護	E	環境	竹田 i P グループ 事業会社役員	紙媒体とデジタル媒体の融合を推進 カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み ●ISO14001およびFSC森林認証の運用、管理 ●エシカルペーパーの提案 ●環境に配慮した印刷手法 ●限りある資源の有効活用 ●原材料、省エネルギー、大気への排出、排水および廃棄物などの管理
	9 産業・中小企業振興 12 持続可能な消費 17 パートナーシップ		消費者課題		お客様満足度No.1企業に向けた取り組み お客様の課題解決を促進 お客様のコミュニケーション支援および販売支援 紙媒体とデジタル媒体の融合を推進 ●ワンストップソリューションの強化 ●お客様の置かれている状況とビジネスモデルを深く理解する ●お客様との協業による社会的課題の解決 ●低コスト生産体制の構築 ●半導体関連マスク事業の強化 ●新事業の開発 ●ISO9001およびISO27001の運用、管理
社会的課題を解決に導く経営基盤の強化	3 気候変動 4 労働時間 5 多様な人材の確保 8 働きがい 10 公正な取引関係 16 公正な消費 17 パートナーシップ	S	公正な事業慣行	竹田 i P グループ ホールディングス 経営統括本部長	サプライヤーの皆様と対等で公正な取引を実施 良好なパートナーシップの構築 ●技術、情報の相互交流などによる信頼関係の構築 ●改善策の推進による共存共栄
			労働慣行		多様な人材の活用推進 労働安全 健康経営 ●様々な教育制度により社員の能力向上やキャリアアップを推進 ●福利厚生等の諸制度による社員や家族の生活をサポート ●労働災害発生防止の徹底
			人権		ダイバーシティとワーク・ライフ・バランスの推進 ●女性活躍のための制度の充実と社員の意識改革 ●実労働時間の短縮 ●生産性を高め場所や時間に縛られない柔軟な働き方 ●仕事とプライベートの両立と質的向上の確立などの働き方改革を推進
			コミュニティ		地域社会との信頼関係の構築 ●安心安全な地域社会づくりのための地道な地域貢献活動の継続的実施
		G	組織統治		透明性のある企業としてコーポレート・ガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底 ●経営の透明性と健全性の確保、迅速な意思決定と適切な事業遂行 ●法令順守と倫理の確保などに向けて組織管理体制の確保 ●コーポレートガバナンス・コードへの対応 ●ISO27001およびPマークの運用、管理
					株主、投資家の皆様への対応 ●適時適切な情報開示の実施 ●株主、投資家の皆様との対話

## サステナビリティ推進室設立の経緯と今後の展開

サステナビリティ推進室は、今期新設された新しいセクションとなります。サステナビリティ推進室が新設された背景には3つの要素があります。

1つ目は、サステナビリティに対する関心の高まりがあります。世界的な気候変動や自然災害、環境汚染など環境の悪化は事業活動を阻害するものとなります。持続可能な社会を実現するために、事業活動と環境保全の両立を図る事が求められています。

2つ目は、サステナビリティを実行する上での指標として、国際的な合意により「持続可能な開発のためのアジェンダ2030」が採択され、新たな課題である「誰一人取り残さない」世界の実現をめざす、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成が国際的に推進されています。

3つ目は、投資家の皆様の注目です。環境・社会・ガバナンスの観点から投資家様が企業を評価し、ESGに配慮した取り組みを進める事が企業自らの競争力を高めると評価され、投資が行われる傾向が強まっています。

従来より、企業はその事業活動において環境の保護や法律・法令の順守など、環境や社会に対する責任を果たすことが求められてきました。当社においても、これまでのCSRレポートでもご報告させて頂いておりましたようにCSR活動を推進して参りましたが、その必要性はさらに高まり、事業を通じて持続的な社会の発展に貢献することが必要になっています。

サステナビリティ推進室は、当社グループの事業活動を通じて社会と地域の発展に貢献し、お客様と社員、そのご家族の皆様のご幸せをめざして参ります。

## SDGsへの取り組み

### 再生可能な素材への切り替え

#### 紙製ストローで脱プラスチック



竹田印刷は、環境負荷低減を実践するため、紙製のストロー「タケダストロー」を開発して商品化しました。中国で包装資材の企画・製造・販売を行う上海竹田包装印務技術有限公司が製造にあたり、衛生管理には半導体関連マスク事業のクリーンルームで培ったノウハウが活かされています。品質についても3つの検査機関での検査によって保証されています。

### ICT(情報通信技術)機器を通じた業務の軽減化

#### 知育教材アプリによる介護支援



コミュニケーションロボット「ロボホン」を活用した、高齢者福祉施設向け介護レクリエーションアプリ「ロボシルバーク」を開発。2021年に販売を開始した知育教材アプリ「ロボキッズパーク」の知見や利用者様のご意見を反映し、QOLの補助、高齢者福祉施設職員の方の負担軽減をめざして開発・商品化されました。

### フードロス削減と飢餓ゼロをめざして

#### 企業向け防災備蓄品のリユースサービス



世界中で7億人以上が貧困に苦しむ一方で、日本の食品ロスは年間600万トン以上となっています。竹田印刷は公益社団法人 日本非常食推進機構と協業して、企業の防災備蓄品のうち消費期限が近づいた物を回収し、食料を必要とする人につなぐリユースサービスを展開。フードロス削減と社会福祉に寄与しています。

### 環境配慮型のパッケージの普及

#### プラスチック使用量を削減



日栄印刷紙工では、熱をかけると縮む性質をもつ「シュリンクフィルム」を台紙に貼付けた「シュリンクフィルム貼付台紙」をご提案しています。従来のプリスターパック(透明なパッケージ)よりも、プラスチック使用量を削減することができ、環境配慮型のエコなパッケージとなります。小ロット・多品種に対応したシュリンクフィルム貼付装置を自社設備として導入しており、除菌スプレーのパッケージ等に採用されました。

## SDGs Topics 地域社会とともに ~竹田印刷(株)の取り組み~

### ▶ 社会貢献活動

#### 名古屋市図書館へ使用済み紙袋の寄贈を開始

2022年9月より、竹田印刷 本社内で集めた使用済み紙袋を名古屋市図書館へ寄贈する取り組みを開始しました。名古屋市図書館では、本や紙芝居を貸出する際に紙袋を再利用する取り組みを実施していましたが、利用頻度の割に供給が追いついていないという背景があり、本取り組みの実施に至りました。これまでの紙袋寄贈数は、9月の65枚から12月には206枚を記録し、社員の「再利用」に対する意識向上にも繋がっています。



社内に設置した紙袋回収箱



### ▶ 多様性の尊重

#### “LGBTQ理解促進”のための研修を実施

すべての社員が、自分らしさを大切にしながら安心して働き続けられるだけでなく、多様な価値観を尊重しあい、個々の能力を活かすことができる働きがいのある職場環境の実現に向け、LGBTQの理解促進を進めています。その第一歩として、管理者向けに研修を実施し、LGBTQの基礎知識から管理職として気を付けるべきことまで、幅広い内容の講義を実施しました。今後も、多様性を尊重する職場風土の醸成に取り組んでまいります。



### ▶ 障がい者アートの活用

障がいのある方の芸術・文化活動の応援を通じてダイバーシティ&インクルージョンを推進しています。

#### 「Innovation Print Awards 2023」にて、ダイレクトメール部門第1位を獲得

2022年12月、富士フィルムビジネスイノベーション株式会社が主催する当コンテストにて、竹田印刷が応募した「SDGs貢献製品 デザインを活かして誰もが活躍する社会を一障がい者アートの活用」がダイレクトメール部門で第1位を獲得しました。



受賞作品

#### 「第3回SDGs フェスティバル in 名古屋丸の内」において、障がい者アート展示に特別協力

2022年11月から2023年1月にかけて、SDGsに関する企業・自治体・大学等の取り組みを紹介する当イベント(主催:東京海上日動火災保険株式会社)にて“アール・ブリュット\*絵画展”が開催され、障がい者アートを提供しました。12月には同イベント内で「SDGsまつり」が開催され、展示ブースのスタンプラリー用景品として、障がい者アートを活用したオリジナルの缶マグネットやトランプを制作・納品しました。

※アール・ブリュット:加工されていない生(き)の芸術。障がい者アートとも呼ばれます。



アール・ブリュット\*絵画展

#### 世界自閉症啓発デーに協賛

毎年4月2日は「世界自閉症啓発デー」とされ、名古屋市でも自閉症をはじめとする発達障害についての啓発活動が行われています。障がいのある方と社会との接点づくりが課題となる中、福祉事業所と地元企業が地域一体となって活動を進めていくことが課題解決の第一歩と考え、企業や施設、学校などと協力しながら、障がい者アートを活用したチラシやポスターの作成、缶バッジ(マグネット)配布などの支援を行いました。



障がい者アートを活用した缶バッジのデザイン

### ▶ 活動内容の普及

#### 名古屋市の中학생へ当社の取り組みを紹介

2023年1月、持続可能な未来を切り開いていくことを目的に、名古屋市の中学生に対し、企業として取り組んでいるSDGsの活動を紹介しました。障がい者アート展示における特別協力を実施した「第3回SDGs フェスティバル in 名古屋丸の内」にて、竹紙で製作された作品の紹介や、バナナペーパー等のエシカルペーパーの紹介、アール・ブリュット活動に関する説明等を行いました。



[ ISO26000 / 6.2組織統治 ]



ガバナンス 組織統治

## コーポレート・ガバナンス

竹田 i Pグループは、企業の社会的責任を果たし持続的な成長を実現するためには、コーポレート・ガバナンスの強化・充実が重要な経営課題だと考えています。その基本認識に基づき、経営の透明性と健全性の確保、迅速な意思決定と適切な事業遂行、法順守と倫理の確保の実現に向けての組織管理体制の整備に取り組んでいます。

### 取締役会、役員体制

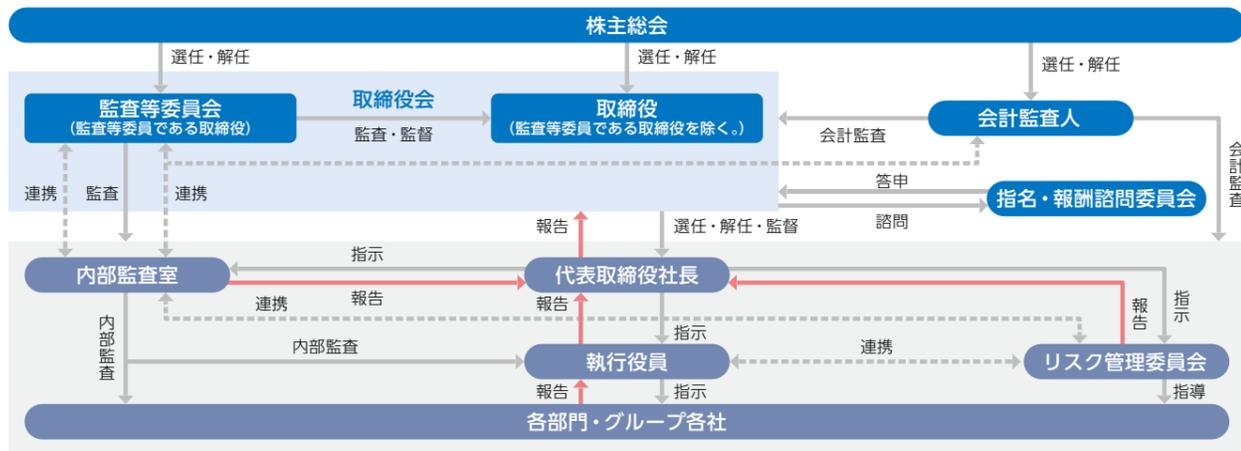
16.7

竹田 i Pホールディングスの取締役会は、監査等委員でない取締役6名(うち2名が社外取締役)、監査等委員である取締役3名(うち2名が社外取締役)の計9名で構成されています。代表取締役社長を議長とし、定時取締役会を月1回開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、重要事項の決定ならびに取締役の業務執行状況の監督などを行っています。任期は、監査等委員でない取締役は1年、監査等委員である取締役は2年です。

社外取締役は、高い見識と豊富な経験を有する有識者から選任され、客観的な視点で当社取締役の職務執行の妥当性を監督することで、経営の健全性の確保を図っています。また、社外取締役は、独立役員要件を満たしており、一般株主と利益相反が生じるおそれがないと判断し、全員を独立役員に指定しています。

業務運営に関しては、竹田 i Pグループ全体の中期経営計画及び年度計画に基づき、各社がそれぞれ年度予算を策定し、定時取締役会において進捗状況の確認をしています。

コーポレート・ガバナンス体制図



### 指名・報酬諮問委員会

16.7

竹田 i Pホールディングスは、取締役の指名および報酬などに関する手続きの公正性・透明性・客観性を確保し、コーポレート・ガバナンスの充実を図るため、指名・報酬諮問委員会を設置しています。取締役会の諮問に基づき随時開催され、取締役会に対して答申を行っています。構成員は、取締役会の決議により選定された取締役3名以上で構成し、その過半数は独立社外取締役とし、委員長は独立社外取締役から選任しています。

### 監査等委員会

16.5

監査等委員会は、監査等委員である取締役3名(うち2名が社外取締役)で構成されています。定例の監査等委員会は、原則として毎月1回開催し、監査等委員長を議長として、取締役会の職務執行について監査しています。また、グループ各社の監査役も出席するグループ監査連絡会を適宜開催し、経営に対する監視機能を果たしています。

さらに、会計監査人との相互連携を図るため、会計監査人から随時監査に関する報告を受けるなど情報交換を行っており、社長直轄の内部監査室との相互連携についても、必要に応じて内部監査室からの監査報告を受けるなどにより適宜コミュニケーションをとっています。

役員に関する情報(役員報酬や選解任の決定プロセスなど、コーポレート・ガバナンスコードへの対応を含む)については、有価証券報告書やコーポレート・ガバナンス報告書に記載しています。

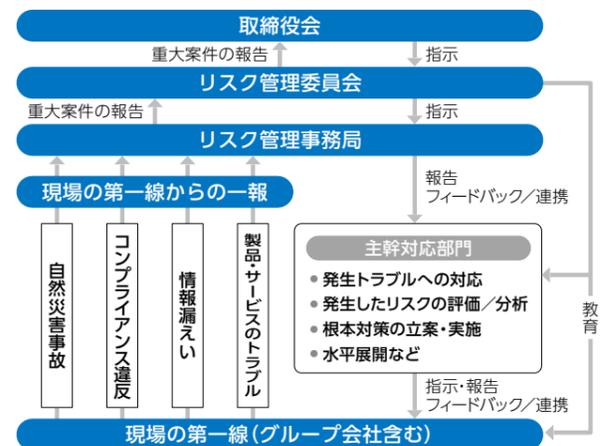
### リスク管理委員会

10.3

竹田 i Pグループでは損失の危険およびその他のリスクを統括的に管理するため、リスク管理委員会を設置しています。当社経営統括本部長である取締役を議長とし、原則として年3回開催しています。リスク管理規程などに基づき、個々のリスク(コンプライアンス、経営戦略、業務運営、環境、災害等)に対処する責任部署を定めるとともに、グループ全体のリスクを網羅的・統括的に管理する体制を確保し、経営上の重大なリスクへの対応方針その他リスク管理の観点から重要な事項を取締役に報告しています。

なお、経営に関連するリスクは当社ホームページ、有価証券報告書に掲載しています。

リスクマネジメント体制図



### コンプライアンス

3.3 4.4 10.3 11.5 13.1 16.4 17.17

「竹田 i Pグループ行動規範」の制定、コンプライアンスに関する研修の継続的な実施などにより、全社的にコンプライアンス(法令順守)に対する意識の向上、浸透を図っています。「竹田 i Pグループ行動規範」は、当社の社訓をより具体的な行動指針として明文化した内容となっており、コンプライアンスの徹底、顧客満足の実現、人権の尊重、社運の発展、よき企業市民であり続けることなど、社員一人ひとりのとるべき行動を明確にし、その啓蒙・浸透を徹底するために、新入社員を始めとして研修を実施しています。

下請代金支払遅延等防止法(下請法)や著作権法などの各種法令については社員研修を行い、違法行為の未然防止を図っています。

社員などから寄せられた法令違反行為などに関する相談または通報については、「公益通報処理規程」を定め、通報者が通報を行ったことを理由として不利益を受けることのないよう保護されると共に、職場環境が悪化することのないように、適切な措置が執られます。

また、社員が職務に関して知りえた内部情報を利用して、株式などの売買やその他の取引を行うことを規制するため、内部情報の管理について順守すべき基本的事項を定め、

### 執行役員

16.7

竹田 i Pグループでは経営効率の向上とチェック体制強化の両立を目的として、執行役員制度を導入しています。また、更なる充実を図るため、2021年6月に開催された定時株主総会の決議により、従来から採用していた雇用型の執行役員制度に加えて、委任型の執行役員制度を導入しました。

### 内部統制システム

16.5

「内部統制システムの基本方針」、「財務報告に係る内部統制の方針」に従い、適正な業務遂行の実現を図るため、全社統制・業務処理統制の仕組みの文書化、リスクの統括的な管理体制、情報セキュリティ体制などを整備・確立し、厳格に運用しています。

財務報告に係る内部統制の有効性評価のため、グループ全体での内部統制の運用改善活動を推進しています。財務報告に係る内部統制の評価の結果、2023年3月31日における当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

未然防止を図っています。

さらに、反社会的勢力との関わりを一切排除するため、お客様やサプライヤーの皆様などとの間で各種契約書や覚書を取り交わしているほか、管理体制として「反社会的勢力対応規程」を定め、運用しています。

2022年度における各法規制違反は発生していません。

### 事業継続計画 (BCP) への取り組み

災害などの発生時でも、社員およびその家族の安全を守り、迅速な復旧を図って重要業務を継続するために事業継続計画(BCP)を策定しています。

地震などの災害、感染症大流行、情報セキュリティ事故などを想定し、緊急対策本部組織や、復旧シナリオ、お客様ごとの対応ステップなどについて詳細で現実的な計画を定めているほか、災害時や緊急時で電話が繋がりにくい場合にも利用できるインターネットを介した社員の安否確認システムを導入し運用しています。安否確認システムは定期的に通信訓練を実施しています。

## 情報セキュリティ

竹田 i P ホールディングスおよび竹田印刷では、会社とすべての社員との間で採用時に個人情報および機密情報の守秘義務に関する誓約書を締結しており、社員に配付した「ITセキュリティハンドブック(第3版)」、標的型メール訓練や全社員向け教育などにより、情報セキュリティに対する社員の注意喚起に努めています。

さらに、ICカード社員証による入退室管理によって、オフィスエリアの物理的セキュリティを強化するなど、入退室の管理からサーバーやデータの管理まで、あらゆるシーンでのリスクを想定した対策が施されています。

また、竹田印刷は万全のセキュリティ体制が高い評価を受け、様々な守秘印刷物の受注実績があります。守秘印刷

物の業務に携わる社員は最小人数に限定して作業に従事し、関係者のみが入室でき監視カメラが設置されている機密エリアで作業を行っています。

守秘印刷物に関しては、原稿の受け取り方法から損紙の廃棄処理方法まで細部にわたる特別な作業手順を確実に実行するとともに、作業場の24時間監視カメラや通用口への警備員の配置など厳重なセキュリティ管理で、お客様の安心にお応えしています。

竹田印刷は企画・デザインから印刷・加工までのすべての工程で確実な情報保護をお約束するため、竹田 i P ホールディングスとともにISO27001の認証取得をしています。



### 情報セキュリティ対策

竹田印刷では、「その情報が事前に内部・外部に漏えいすることにより、お客様および第三者に著しい不利益を与えるもの」「お客様の秘密要請、機密契約により指定されるもの」を機密情報案件とし、定められた要領に従い機密情報の管理を行います。

	<b>物理的措置</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報や管理情報の取り扱いエリアと他の作業エリアを区分</li> <li>ネックストラップの色分けによる来訪者の識別</li> </ul>
	<b>媒体管理</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>私物の電子記録装置の社内設備への接続を禁止</li> <li>許可された管理デバイス以外はデータの書き込み不可に設定</li> </ul>
	<b>機器管理</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無停電電源装置の設置およびバックアップの実施</li> <li>災害に強いデータセンターへのサーバー設置</li> </ul>
	<b>データの管理</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機密情報を取り扱う業務に従事する者を必要最小限に限定</li> <li>許可されたオンラインストレージサービスによる、機密性を保持したデータ授受を実施</li> </ul>
	<b>ネットワーク管理</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DNSフィルタリングの導入</li> <li>外部から接続可能な領域と内部ネットワーク領域を分離</li> </ul>

### 事業会社の事例

プロセス・ラボ・ミクロンは、半導体パッケージ用バンプマスク、電子部品実装用メタルマスクなどの高精細マスクや各種治具を製造販売しており、また業界初の技術を複数自社開発しています。そのため、製造・生産のノウハウやお客様からいただいた図面・設計依頼書などのデータが流出しないよう、データ管理を徹底しております。各種データは、クラウドではなくアクセス制御を設けた社内サーバーのみに保存するようにしており、また災害が起こってしまっても、予備装置があるためデータの損失を防ぐことができます。データのバックアップについては、拠点の多さを活かして二重にバックアップをし、ミラーリング\*を実施することで、毎日リアルタイムにバックアップを行っています。

\*ミラーリング…データを保存する際に、同じデータを同時に複数のストレージに書き込むこと

### Topic | セキュリティ関連商品の紹介

#### セキュリティラベルの販売

日栄印刷紙工では、不正流通防止に応用が可能なセキュリティラベルを提供しております。インキメーカーと相談しながら制作したインキを使用しており、太陽光などの可視光では印字が見えず、特殊な光を当てると見えるようになる仕組みとなっています。化粧品等高額なものはインターネットで不正に流通されることが多く、不正販売・転売の防止や、製品の追跡などに活用されています。また、お客様のご要望に合わせた製品のご提供が可能となっています。



## 個人情報保護

竹田 i P ホールディングスおよび竹田印刷は個人情報の保護を目的として「個人情報保護方針」を制定し、JIS Q 15001に基づく個人情報保護マネジメントシステムを構築・運用しています。お客様の大切な個人情報を守るために、様々な取り組みを行い、「プライバシーマーク」の付与認定を受けています。

取得した個人情報は保管期間を定め、登録・変更・削除・廃棄(消去)などについては、管理者の責任のもと適正に台帳管理されます。また、受託業務終了時には授受票による個人

情報返却報告や個人情報処分証明書を提出しています。

日々の業務では、メールの誤送信を防ぐため、運用ルールによる対策だけでなく、システムによる対策として、「送信一時保留システム」および「添付ファイル暗号化システム」を導入するなどして、セキュリティ対策を複合的に行っています。

2022年度における、お客様のプライバシー侵害やデータ紛失などに関連する事故は発生していません。



<p>個人情報の利用目的について</p>	<p>個人情報の利用目的については、お客様から個人情報取り扱い業務を受託する場合および竹田 i P ホールディングス・竹田印刷が個人情報を収集する場合、利用目的を特定し、その利用目的の範囲内にて利用します。詳しくはホームページをご覧ください。</p> <p><b>ホームページ</b> 【竹田 i P ホールディングス】 <a href="https://www.takedaip-hd.co.jp/privacy/">https://www.takedaip-hd.co.jp/privacy/</a>                  【竹田印刷】 <a href="https://www.takeda-prn.co.jp/privacy.html">https://www.takeda-prn.co.jp/privacy.html</a></p>
----------------------	--

## 知的財産に関する活動

### 竹田印刷(株)

竹田印刷は企画・デザインなどのクリエイティブを含めた企画提案型の営業活動を行っていますが、知的財産などの法的問題のない提案を行うことが必要不可欠です。第三者の知的財産の不正な入手・使用、権利の侵害を行わないよう「素材ダウンロードサービス利用マニュアル」を作成し、事前にチェックする仕組みを構築しています。マニュアルは毎年改定し、知的財産権侵害リスクの低減を図っています。

#### 「素材ダウンロードサービス」利用手順

- 1 素材の選択** 制作者はマニュアルの「推奨サイト一覧」より素材を選択する。
- 2 報告** 制作者は選択した素材について「使用報告書」を作成して営業担当に報告する。
- 3 確認** 営業担当は「使用報告書」で知的財産権などがクリアになっているかを確認する。
- 4 記録の保管** 「使用報告書」は営業部門で原則3年間保管する。

### (株)プロセス・ラボ・ミクロン

プロセス・ラボ・ミクロンは、自社開発製品・技術が多くあり、特許事務所と連携しながら自社で特許を取得しています。特許侵害については、特許事務所へ調査を依頼したり、技術開発部・コンプライアンス統括部により必要に応じて都度調査が行われています。その他、東京スクリーン製版協同組合より特許情報が届くため、その情報をもとにチェックを実施しております。

#### 現在の特許出願数(2023年5月現在)

- 特許登録数 40件(うち台湾1件、中国1件、フィリピン1件)
- 特許出願済 8件(うち香港1件、中国2件)ほか、ベトナムへの出願手続き中の事業有り。

海外出願の可否に関しては、まずは国内出願を行ったあと、出願先国の市場動向等を踏まえて検討します。検討後、必要(有用)と判断された場合に、海外出願を行っています。

#### これまでに取得した特許(抜粋)

- マイクロ流体チップ製造用金型
- メタルマスクの後処理方法
- 高硬度ニッケルめっきメタルマスク など

[ ISO26000 / 6.2組織統治 ]

ガバナンス

組織統治



## 株主・投資家の皆様とともに

竹田 i Pホールディングスでは、適時適切な情報開示の重要性を認識し、関連法規に従って主体的・継続的なIR活動に取り組んでいます。IRイベントへ定期的に参加するなど、様々な場とメディアを利用して株主・投資家の皆様と対話を図り、当社の経営状況、成長戦略などについてプレゼンテーションをしています。

### 利益配分に関する基本方針

16.7

竹田 i Pホールディングスは、株主の皆様への安定的な配当を基本としながら、業績、配当性向、内部留保などを総合的に勘案し、配当を決定しています。中間配当と期末配当の年2回の配当を基本方針とし、取締役会により決定します。

なお、2022年度は中間配当金として、1株につき普通配当8円、期末配当金は1株につき普通配当12円に持株会社体制への移行の記念配当2円を加え、計14円といたしました。

### 株主優待

17.17

竹田 i Pホールディングスは株主優待として、3月末日で100株以上保有の株主様にはクオカード1,000円分を、1,000株以上保有の株主様にはクオカード1,000円分に加えて、美術カレンダー「徳川美術館の名品」または「新潟県魚沼産コシヒカリ新米5kg」のどちらかを選んでいただきお届けしました。



美術カレンダー「徳川美術館の名品」

新潟県魚沼産コシヒカリ

クオカード

### IR活動

17.17

株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの充実を図るため、各種IRイベントへ出展しています。

2022年9月9日・10日に開催された名証IRエキスポ2022(会場：名古屋吹上ホール、主催：株式会社名古屋証券取引所)へ出展いたしました。3年ぶりの開催となる同イベントにて、当社グループの現状やサステナビリティに関する取り組み、成長戦略などの将来展望をお伝えしました。多くの皆様にブースへお越しいただき、当社に対する期待の高さを感じました。

当社は2011年より、IR活動を通じた義援金活動を行ってまいりました。今回は、ご協力いただきましたアンケート回答数に200円を乗じた金額(上限10万円)を、緑の募金<sup>※1</sup>へ寄付させていただきました。また、当日お配りした会社説明資料やメモ帳に竹紙100<sup>※2</sup>を使用するなど、IR活動を通じたSDGsを推進しました。

今後もIRイベントへの出展を通じまして、株主・投資家の皆様とのふれあいを大切にまいります。



来場者の皆様に事業内容や今後の見通しについて説明しました。



竹紙100を使用したメモ帳(左：表紙、右：裏表紙)



緑の募金

※1 緑の募金(寄付先：公益社団法人 国土緑化推進機構)…植樹や間伐など国内の森林整備のほか、震災で被災した方々への支援、未来の担い手である子どもたちの森林環境教育、また海外の緑化支援等にも使われています。

※2 竹紙100…里山を荒らすことから、今や“竹害”とまで言われる竹。その竹を持続的に大量に使うことで社会的課題の解決を図る、日本の竹100%の紙を採用しています。



株主・投資家の皆様には適時開示情報を含めた有用な情報を当社ホームページでも公開しています。  
ホームページ <https://www.takedaip-hd.co.jp/ir/>



社会活動

[ ISO26000 / 6.7消費者課題 ]

消費者課題



## お客様とともに

竹田 i Pグループは、竹田 i Pホールディングスの前身にあたる竹田印刷の創業以来、一貫して真心込めたきめ細かいサービスを信条としており、誠実を尊ぶ文化があります。

グループ全体が心ある誠実な企業風土を持ち、常にお客様に寄り添うサービスを提供し続けたいと考えています。

### お客様のパートナー企業をめざして

17.17

#### 竹田印刷(株)

2022年11月16日～18日に、ポートメッセなごやにてメッセナゴヤ2022が開催されました。竹田印刷はダイバーシティ&インクルージョンを推進していることから、障がい者アートを展示のメインに据え、アート作品を活用した製品や自治体・公共施設との地域連携プロジェクトなどに関する取り組みを紹介しました。



#### Topic

#### 障がい者アート作品を活用したトランプを製作

「1つの製品により多くのアート作品を活用できないか?」という考えをきっかけに誕生したものです。愛知県・石川県にある社会福祉施設の利用者様30名の作品を用いて、小ロットで多種印刷できるオンデマンド印刷機の特性を活かし、竹田印刷オリジナルのトランプを製作しました。



#### (株)光文堂

2023年1月25日・26日に、第59回新春機材展がポートメッセなごやにて開催されました。今回は「VALUE & INNOVATION きらり」がテーマ。「新たな価値を生み出し変革を続けていこう」という意志を持ち、一人ひとりが「きらり」と光る存在になろうという気持ちが込められています。光文堂のブースでは、紙面に掲載された二次元バーコードを自動でチェックできるソフトウェア「KBD QRエビデンス」など、時代を見据えた最新鋭システムが展示されました。



2022年10月7日・8日に、第45回最新製本省力化機材展が光文堂のテクニカルステーションにて開催されました。不透明な時代を先読みして進むための“製本×DX=省力化”に繋がるシステムが、数多く提案されました。製本業者様向けのポストプレス(印刷後の加工から納品までの工程)に関する出展が多いですが、オンデマンド印刷機などの展示や中古機業者様の出展もあり、大盛況となりました。



#### 竹田東京プロセスサービス(株)

2022年11月30日～12月2日に開催されたネプコンジャパンオンラインに出展しました。竹田東京プロセスサービスとプロセス・ラボ・ミクロンにて取り扱う全商品の資料を掲載し、半導体関連マスク製品のPRを行いました。新商材としては、接着剤印刷用マスクや、ザグリ加工などのフォトマスクへの表面加工方法について紹介を行い、さまざまなお客様に当社グループの取り組みを知っていただくことができました。

#### (株)プロセス・ラボ・ミクロン

電子機器や自動車を製造する上で欠かすことができない、電子部品実装技術の総合展示会であるJISSO PROTEC(第24回実装プロセステクノロジー展)が2023年5月31日～6月2日に開催され、実装関連分野として出展しました。今回は主要製品であるメタルマスクを展示しました。4年ぶりの現地開催ということで、お客様に幅広く知っていただくことをテーマとし、定番商品から新商品まで幅広く展開しました。中国からいらっしゃったお客様にもブースに足を運んでいただき、商品を知っていただくことができました。



## ISO9001認証取得

12.5

	竹田印刷(株) 竹田iPホールディングス(株)	日栄印刷紙工(株)	竹田東京プロセスサービス(株)	(株)プロセス・ラボ・ミクロン
認証取得日	1999年11月15日	2015年11月2日	1999年12月1日	2000年6月26日
認証登録番号	07965-A		12915-A	09146

## 品質に関する基本的な考え方

12.5

竹田印刷ではISOの3つの規格9001(品質)、14001(環境)、27001(情報セキュリティ)およびJIS Q15001(個人情報保護)のマネジメントシステムを統括して、TMS(竹田マネジメントシステム)として運用しています。品質に関しては、ISO9001に基づいて品質保証体制を整備し、品質管理に万全を期しています。さらに、品質の向上を図るため継続的な改善を行い、常に信頼される製品を提供することにより、お客様の繁栄に貢献したいと考えています。



### 品質不適合発生時の対応

品質不適合発生の際には「不適合及び緊急事態対応管理規定」に基づき①事実調査 ②原因の究明 ③影響範囲の特定 ④お客様への報告を行います。そして「是正処置規定」に基づき、不適合の再発防止や原因を除去するための是正処置を行い、または是正処置の実施状況を3ヶ月後にフォローアップすることで、効果の確認をしています。

### 品質教育・品質会議

竹田印刷では、新入社員を対象にした基礎的な品質教育をはじめ、TMS(竹田マネジメントシステム)の年間教育計画に基づいた品質教育を行っています。また、QCサークル活動を通じた品質意識の向上や品質教育を継続することで、品質第一の風土の構築と維持に努めています。

経営者が参加している品質会議では、品質トラブルの事例を全社に展開し、組織全体の品質意識の向上につなげると共に、過去の不具合事例をデータベース化して再発防止に活用しています。



## 品質向上への取り組み

9.4 12.5

### 竹田印刷(株) ～ロジスティクス部門～

#### 受発注および倉庫管理システム

お客様の商品や販促物のロジスティクスを受託する際に利用する受発注管理システム「TS-BASE 受発注」を自社開発しています。受発注や出荷指示、倉庫内の各種業務の生産性と安定性を向上させています。OCR機能付きのハンディターミナルを用いてセキュアな案件にも対応しています。

#### コールセンターシステム(CTI)

スポット的な事務局需要にも柔軟に対応でき、お客様が通話を待っている待ち呼や切断された放棄呼のデータ収集や通話録音により、対応品質改善につなげています。

また東京本部・日本橋にも同様のシステムを導入し、かつ連携することでさらに柔軟な対応が可能となりました。

## 竹田東京プロセスサービス(株)

### 印刷実験を実施

スクリーンマスクは基本的にオーダーメイドとなるため、お客様の要望に応えるための新商品開発を常に行っています。北陸センターにある技術棟には印刷室と実験室があり、印刷の再現性について可能性を探るなど、お客様と試行錯誤しながら、月に2~3件ほど様々な試作品の作製や実験が行われています。



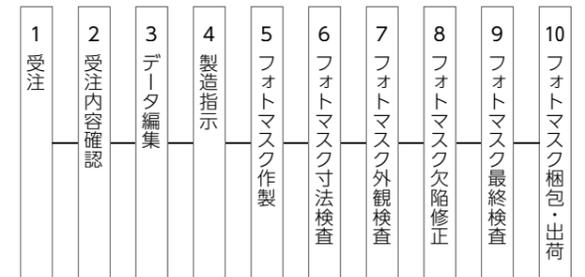
北陸センター 技術棟

印刷実験室

### QC工程表を用いた品質管理

半導体関連マスク製品は、電子部品の一部として使用されるため高い精度が求められます。そのため全数検査により不良品・異常品を取り除き、品質保証に努めています。またQC工程表を作成し、工程に問題が発生した際には改善を行い、一定の品質基準を保つようにしています。

例：フォトマスク 作製工程(概略)



## 日栄印刷紙工(株)

### 厳しい品質チェックを実施

日栄印刷紙工では、多様化する顧客ニーズと厳しい品質基準に対応した化粧箱などのパッケージ、各種表示ラベルなどを製造・販売しています。製品によって全数検査を行っており、プランクス検査機を使用し、内容によって“ハード/メディアム/ノーマル/イージー”等の検査モードを使い分けながら検査を実施しています。医薬品や化粧品のパッケージは特に厳しく検査をしており、バーコードが読み込めるかどうか、成分がきちんと読めるかどうかなど、限定箇所を厳しく検査しています。



同じ紙面の中で検査モードを使い分けことができ、また不良の内容や大きさがわかるようになっています。(検査条件は、お客様が希望される品質により異なります)

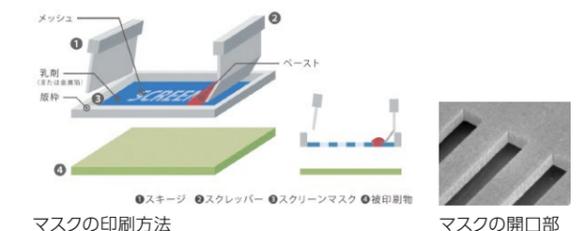
## (株)プロセス・ラボ・ミクロン

### ISO対象製品を開発

プロセス・ラボ・ミクロンでは、品質向上に向けて様々なISO対象製品を開発しています。

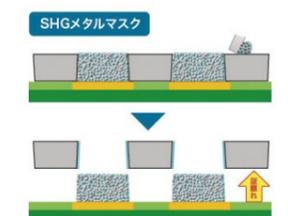
#### HGP™メタルマスクの開発

電子回路基板にはんだペーストを印刷するため、メタルマスクを設置しペーストを流し込む際、マスクの開口部(すきま)からペーストが裏回りしないようにするために、開口部のへりの鋭角度をシャープにした製品です。電子回路基板に連続印刷する際に、ペーストの滲み出し防止に強い効果を発揮します。



#### SHG™メタルマスクの開発

マスク開口部の壁面を平滑化、また開口部のへりの鋭角度をシャープにすることで、マスクを引き上げた際にペーストが開口部壁面に残ることを防ぎ、かつペーストが裏回りしないようにすることで、連続印刷時の仕上がりにばらつきが出ないようにした製品です。





## 人権・人材の取り組み

### 人権への取り組み



竹田 i Pグループでは、企業理念「持続可能な社会に貢献すべく、溢れるほどの情熱 (passion) をもって、革新 (innovation) しつづける」を実現するために、すべての社員がとるべき行動を示した「竹田 i Pグループ行動規範」を定めています。この「竹田 i Pグループ行動規範」において「人権尊重」の考えを明記するとともに、「竹田 i Pグループ人権方針」をここに定め、人権尊重の取り組みを推進していきます。本方針は、社内外のステークホルダーの人権尊重に向けた取り組みを表現し、グループ行動規範およびグループサステナビリティ方針に基づく責任を示すものであり、サプライヤーや業務委託先とも連携・共存共栄を進めながら人権尊重の責任を果たしてまいります。

#### —— 竹田 i Pグループ人権方針 (項目のみ抜粋) ——

1. 人権に関する基本的な考え方
2. 適用範囲
3. 適用法令の遵守
4. 人権デュー・デリジェンス
5. 救済
6. 教育
7. ステークホルダーとの対話・協議
8. 推進体制
9. 情報開示

詳しくは当社ホームページをご覧ください。  
[https://www.takedaip-hd.co.jp/sustainability/human\\_rights\\_policy/](https://www.takedaip-hd.co.jp/sustainability/human_rights_policy/)

### 人材への取り組み



竹田 i Pグループが、事業活動を通じて社会に貢献しながら、企業価値を高め持続的に成長を続けていくためには、それを支える「人材」の力が不可欠です。当社グループは、人材への投資を重要な経営戦略の一つとして位置づけ、人材の能力開発と自立的成長・挑戦を支援するとともに、多様な人材一人ひとりがお互いの価値観や多様性を尊重しながら、健康で動きがいをもち働くことができる職場づくりを推進し、当社グループの企業価値の向上をめざします。

#### —— 竹田 i Pグループ人的資本に関する方針 ——

##### 1. 多様な人材の活躍促進

性別・年齢・国籍・障がいの有無・性差などを問わず、社員一人ひとりの多様性を認め合い、お互いの価値観や発想を活かすことで新しい価値の創造をめざします。

##### 2. 働き方改革

多様な社員が安心して働きつづけられるよう、仕事と生活の両立を支援する制度の拡充と制度を利用しやすい職場環境づくりを行います。実労働時間の削減とスマートワーク (生産性を高め場所や時間に縛られない柔軟な働き方) を推進し、生活の質向上と生産性向上の両立をめざします。

##### 3. 健康で安心な職場環境の整備

社員の安全と健康に配慮し、労働災害の予防や、健康管理メンタルヘルス対策など、社員の心身の健康保持・増進に取り組みます。

##### 4. 人材育成

社員一人ひとりの能力を活かすための「適材適所の人材配置」と「能力開発の場を提供」するとともに、個々人の役割・能力・成果に応じた公正な評価と処遇を行う事で、社員の自己実現・自立的な成長を支援します。

### 指標ならびに目標値

竹田 i Pグループでは人的資本に関する以下の目標を定め、実現に向けて取り組んでいます。

テーマ	目標値【グループ全体※】	実績値 (2022年実績)
女性管理職比率の向上	管理職に占める、女性管理職の割合を、2025年度末までに <b>10%以上</b> にする	<b>7.9%</b>
実労働時間の削減	月ごとの平均残業時間を、2025年度末までに <b>17時間以下</b> にする	<b>19.6時間</b>
年休取得率の向上	年次有給休暇の取得率を2025年度末までに <b>75%以上</b> にする	<b>69.7%</b>
男性の育児休業取得率向上	男性の育児休業・育児目的休暇の取得割合を2025年度末までに <b>70%以上</b> にする	<b>33.3%</b>

※国内主要会社5社の集計値：竹田 i Pホールディングス、竹田印刷、光文堂、竹田東京プロセスサービス、プロセス・ラボ・ミクロン



## ダイバーシティの推進

竹田 i Pグループでは、性別・年齢・国籍・障がいの有無などを問わず、多様な価値観や個性を持った人材が持てる能力を最大限に発揮して活躍できる環境づくりのため、ダイバーシティを積極的に推進しています。

### 女性の活躍推進



竹田印刷では、ダイバーシティの中でも特に女性活躍推進を重要な経営戦略の一つと位置付け、女性社員の活躍機会の拡大やキャリア開発支援に積極的に取り組んでいます。

### 女性の管理職比率の向上

竹田印刷では、女性社員が持てる能力を最大限に発揮し活躍できるよう、職域拡大や管理職養成セミナーへの参加促進など、女性管理職の増加をめざす取り組みを実施しています。



2022年度の女性管理職比率は10%を超えるまで上昇し、女性活躍推進の優良企業の証である「えるぼし」最高位の3つ星認証を取得しています。

### キャリアサポートイベントの開催

竹田印刷では、育児休業からの復職者を対象とした先輩社員との交流会や、将来のキャリアイメージや育児との両立、会社の諸制度や実際の両立事例を紹介するセミナー等、様々なライフステージに立つ女性社員が自分自身のキャリアだけでなく、様々な立場から職場づくりを考えるきっかけとなるキャリアサポートイベントを実施しています。



### 多様な人材の活用



### 障がい者雇用の促進

当社グループでは、障がい者雇用に社会的責任と捉え、法定雇用率の達成をめざし、障がい者雇用に取り組んでいます。同時に、障がいを持つ方々が多様な個性や能力を活かして活躍できるよう、職場での定着支援にも力を入れています。

### LGBTQ理解促進の取り組み

竹田印刷では、性的指向や性自認にかかわらず、誰もが自分らしく働くことができる職場環境の実現をめざし、LGBTQに関する基礎知識を学ぶ社員教育等を行っています。

### シニア社員の活躍促進

当社グループでは、長年の経験やこれまで培われた技術や能力を次世代へ継承するため、定年退職者の再雇用制度を整えて活用しています。60歳以降も安心感と高い意欲を持ち働き続けられるよう、年齢に関わらず活躍していただける環境を今後も提供してまいります。

### 外国籍社員の雇用

海外事業展開に即した関連諸国の人材を採用し、将来の幹部候補として育成を進めています。

#### Topic | 多様な人材が活躍できる職場風土の醸成

##### 竹田印刷 ～TAKE UP プロジェクト～

竹田印刷では、2016年より社長直下のプロジェクトを立ち上げ、活力ある職場環境・風土づくりを推進しています。プロジェクト名には「竹田印刷 (TAKE) が、今よりも上に向かって成長 (UP) する」という思いが込められています。社員アンケート等により抽出された課題に対しメンバーを選定し、ダイバーシティ推進、キャリア開発支援、両立支援制度の拡充等の施策を実行しています。



##### 光風企画 ～従業員ES調査の実施～

光風企画では「従業員の満足度向上が顧客満足度の向上に比例する」との考えのもと毎年ES (満足度) 調査を行い誰もが働きやすい職場環境をめざしています。調査結果から複数の課題を抽出し、各部門の管理職が主導して毎年さまざまな対策を投じます。「この会社で働き続けたい」と思う人は前年度の74%から94%に向上しました。





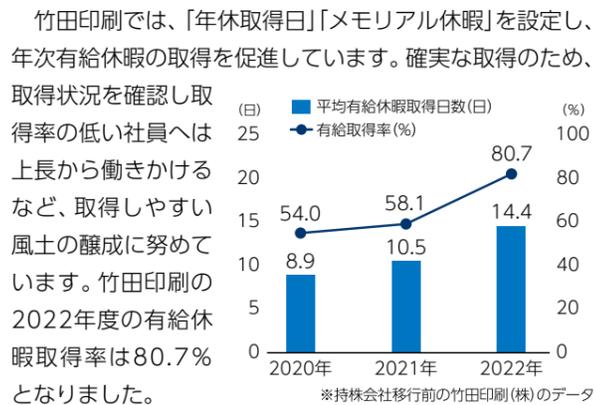
## 多様な人材の活躍を支援する制度・取り組み

全ての社員が仕事とプライベートを両立させながら、やりがいを持って働き続けられる職場環境を整備するため、長時間労働を是正しながら成果を生み出すことのできる「生産性の高い働き方」を推進し、仕事とプライベートの質向上と生産性向上の両立をめざしています。

### 働き方改革の推進

5.b 8.5

#### 年次有給休暇の取得促進



#### テレワークの推進

竹田印刷では、社員の多様な働き方を実現し、ワーク・ライフ・バランスの実現と生産性向上の両立をめざす取り組みとして「テレワーク勤務制度」を導入しています。営業社員のモバイルワークでは、外出先等でフレキシブルに働くことができ移動時間の削減となるとともに、育児・介護・傷病などの事情を抱える社員には、在宅勤務を活用することで就業継続の一助となっています。

#### ノー残業デーの実施

竹田印刷では、毎月2回「ノー残業デー」を実施し、長時間労働を抑制しています。また、過重労働による健康障害を防止するため、深夜残業については本人の事前申請と上長の事前承認により歯止めをかけています。

#### 平均残業時間の推移

	2020年	2021年	2022年
平均残業時間	20.3時間	22.8時間	20.2時間

※持株会社移行前の竹田印刷(株)のデータ

#### 柔軟な勤務制度の導入

竹田印刷では、業務の繁閑に合わせた勤務時間の調整や、社員の生活と仕事の両立をサポートするため、フレックス勤務、時差勤務、勤務間インターバル、時間単位の代休取得など、より柔軟な働き方を可能とする勤務制度を導入しています。

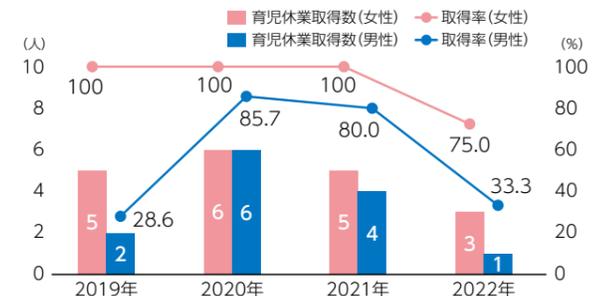
### 育児・介護に関する両立支援

3.1 3.2 4.2 5.4 8.5

#### 男性の育児休業取得促進

竹田印刷では、配偶者が出産を控えた男性社員とその上司に対し、人事部が個別に制度説明を行い、男性社員の育児休業取得を促しています。また、育児休業中の経済的不利益を緩和するために、育児休業の最初の5日間を有給としています。

#### 育児休業取得者数と取得率



#### ウェルカムバック制度

竹田印刷では、育児・介護などに伴うやむを得ない事情や、留学などのキャリアアップを理由に一度退職した社員を優先的に再雇用し、それまでに培った経験やスキルを活かして再び活躍していただく「ウェルカムバック制度」を導入しています。

過去に習得した知識とスキルを有する人材の確保というメリットのほか、社員の多様化に柔軟に対応できる支援策の一つと位置付けています。

#### 介護休業制度

介護が必要な家族がいる社員に対して、介護離職を防止し、仕事と介護の両立を可能とするための制度を整備しています。

### 両立を支援する各種制度

3.1 3.2 4.2 5.4 5.b 8.5

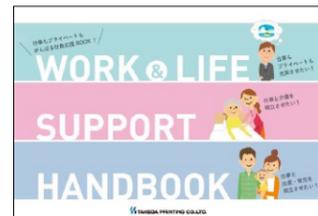
#### 仕事とプライベートの両立を支援する制度

竹田印刷では、育児や介護など、さまざまなライフステージにある社員が柔軟に働くことができるよう、法規定を上回る育児・介護休業や短時間勤務などの両立支援制度を整えています。

項目	内容
産前・産後休業	原則・産前6週間と産後8週間
配偶者出産休暇	配偶者が出産する際、出産日前後10日以内で、2日間の休暇取得が可能(年次有給休暇とは別の特別休暇)
出生時育児休業	子の出生後8週間以内に4週間まで取得可能。分割して2回取得、休業中の就業が可能。
育児休業	子が1歳6ヶ月に達した直後の4月20日、または2歳までのいずれか長い方で取得可能(3ヶ月以内の休業の場合、最初の5日間は有給)
育児短時間勤務	子が小学校3年生修了時まで可能(30分単位で1日2時間まで短縮可能)
所定外労働の免除	子が小学校3年生修了時まで可能
深夜勤務・時間外労働の制限	子が小学校3年生修了時まで可能
子の看護休暇	年次有給休暇とは別に1年間に5日(子が2人以上の場合は10日)特別休暇を付与1時間単位の取得が可能 子が小学校3年生修了時まで取得可能
出産祝い金制度	出生児1人につき30,000円を支給
介護休業	通算93日まで分割取得可能 また、場合により延長可能
介護短時間勤務	介護休業とは別に最長3年間取得可能(30分単位で1日2時間まで短縮可能)
介護休暇	年次有給休暇とは別に1年間に5日(対象者が2人以上の場合は10日)特別休暇を付与1時間単位の取得が可能
フレックス勤務	申請により利用可 コアタイム 10:00~15:00
勤務間インターバル	勤務終了時刻から、次の勤務開始までの間に原則として10時間の休息時間を確保
時間代休	残業時間に応じて、2時間単位での時間代休取得が可能
テレワーク勤務	育児中、療養中社員の在宅勤務や営業職のモバイル勤務が可能
ウェルカムバック制度	勤続3年以上で、育児・介護などのやむを得ない事情で退職した者を優先的に再雇用する(退職後10年以内)
メモリアル休暇制度	本人、家族の記念日に休暇取得が可能(有給休暇)

#### 両立支援ハンドブック

竹田印刷では、年次有給休暇などの休暇制度をはじめ、病気や介護・育児といった様々な事象が発生した際に利用できる、両立支援制度を分かりやすくまとめたハンドブックを発刊し、社員の制度理解と利用促進をしています。



### 社外からの評価

5.4 8.5

#### 竹田印刷(株) ~プラチナくるみん取得~

2022年10月、子育てサポート企業として「くるみん認定」を受けた企業の中で、より高い水準の取り組みを行った企業として『プラチナくるみん認定』を取得しました。社員が仕事とプライベートを両立させながらやりがいを持って働き続けられる環境整備を今後も続けていきます。

※詳しくは、当社ホームページの認定・認定一覧(<https://www.takeda-prn.co.jp/sustainability/certification.html>)よりご確認ください。



#### 光風企画(株) ~「ファミリーフレンドリー企業」「あいち女性輝きカンパニー」の認証~

光風企画では多様かつ柔軟な働き方をめざして各種制度を整備し制度の利用を推奨しています。その結果、男性社員の育児休業や介護のための短時間勤務などが実現しており、2022年3月に「ファミリーフレンドリー企業」認証、2022年9月には「あいち女性輝きカンパニー」認証を取得しています。

### 豊かな生活をサポートする福利厚生

8.8

竹田 i P ホールディングスおよび竹田印刷では、社員やその家族の方々が豊かで活気ある生活を送ることができるように、様々な福利厚生制度を充実させています。



- ☑ 社会保険・労働保険
- ☑ 慶弔見舞金制度
- ☑ 退職金制度
- ☑ 従業員持株会制度
- ☑ 選択制確定拠出年金(選択制DC)制度
- ☑ リゾートクラブ・スポーツクラブの法人利用
- ☑ スポーツ・文化イベントの鑑賞券・招待券の配付
- ☑ 介護サービス・葬儀サービスの法人利用 など



## 労働安全と健康経営

当社グループでは、社員の安全と健康に配慮し、労働災害の防止や心身の健康の維持増進に努めています。会社・労働組合から選出の委員、産業医で構成される「安全衛生委員会」を設置し、職場環境の改善・整備や労働災害の防止活動、通勤災害撲滅活動を行っています。

### 安全衛生に対する基本的な考え方

3.4 3.6 3.a 5.c 8.8 16.1

#### 安全衛生管理体制

竹田 i P ホールディングスおよび竹田印刷では、労使の代表者による「安全衛生委員会」を毎月開催し、安全衛生活動などの報告・審議を行っています。決議事項は社内イントラなどを活用して社員に周知しています。

安全衛生委員会体制図



※安全衛生委員には、労働組合の代表者や各部門の責任者が含まれます

日栄印刷紙工では安全会議を月に1回実施しており、外部の環境衛生コンサルタントに5Sパトロールを依頼して、指摘事項を含めた報告を受けています。また、外部の環境衛生コンサルタントの指導のもと、建物の1F・3Fの作業エリアを中心に歩行昆虫・飛翔昆虫のトラップ配置図を作成しており、前月の結果報告をもとに、対策、処置を行っています。

#### 労使協調による課題の解決

竹田印刷と竹田印刷労働組合は、相互の理解と信頼に基づき健全で良好な労使関係を構築しています。互いの立場を尊重しながら、労使協議会、安全衛生委員会などを定期的に開催し、経営諸課題や労働条件に関する率直な意見交換を行っています。

### 安全衛生への取り組み

4.4 8.8

#### 作業環境の管理

騒音、有機溶剤などの作業環境を定期的に測定し、職場の環境基準を管理しています。特に騒音が発生する職場では、耳栓など保護具の着用を徹底しています。

#### 機械・設備の安全対策

機械による災害は、機械とそれを操作している作業員などが関連して発生します。危険領域には安全装置を設置し、定期的な検査およびメンテナンスを行うことでリスク低減対策を実施しています。

#### 避難訓練の実施

日栄印刷紙工では、冬の17時以降に蛍光灯を消した状態（外が暗い時間帯に災害が発生した想定）で避難訓練を実施しました。また、停電、小火、けが人発生など実際に発生し得る事態を想定した訓練を行った結果、常備灯を整備することになり、環境改善に繋がりました。



火災発見時を想定し、初期消火班が火元を確認し指差し呼称をしている様子

#### 消防点検の実施

専門業者による消防設備の点検を年2回実施し、点検結果を定期的に消防署へ報告するとともに、不具合を改善することで緊急事態発生への対応を図っています。

#### 防災訓練研修の実施

防災訓練は事業部ごとに行っています。本社では、新型コロナウイルス感染予防対策のため、毎年行っている実地訓練ではなく座学による訓練研修を実施しました。各本部の避難誘導班・初期消火班・通報連絡班の方が参加し、ビデオによる地震対策講習および、当社の事業継続計画について知識を深めました。



新入社員研修での消火訓練の様子

#### 化学薬品教育の実施

プロセス・ラボ・ミクロンでは、半導体関連製品の作製時に使用される化学薬品について、各部署にて上長による教育が行われ、知識を平準化するとともに作業時の安全性を高めています。

### 交通安全への取り組み

3.6

竹田印刷では、通勤・出張・外出時の交通災害発生防止の徹底を図ることを目的に安全衛生委員会において情報を共有し、現場の意見を反映させながら交通安全活動に取り組んでいます。またアルコールチェックの義務化に伴い、アルコール検知器を使用して運転前後の運転者の酒気帯びの有無を確認し、結果を日誌に記録・保管しています。

#### 事故防止対策

光文堂では、外部サービスを活用し、各営業車に通信機能付きドライブレコーダーを取り付けて走行データ分析を実施し、事故防止活動を実現しています。毎週、前週の運転状況に関する個々の診断結果が送付され、社内の得点ランキングが共有される仕組みとなっています。また診断結果にて、全国平均点との差や危険挙動の内容・回数等が分かるため、社員の運転傾向を分析することができます。

### 健康経営への取り組み

3.4 5.c 8.8 16.1

#### 健康経営の目的

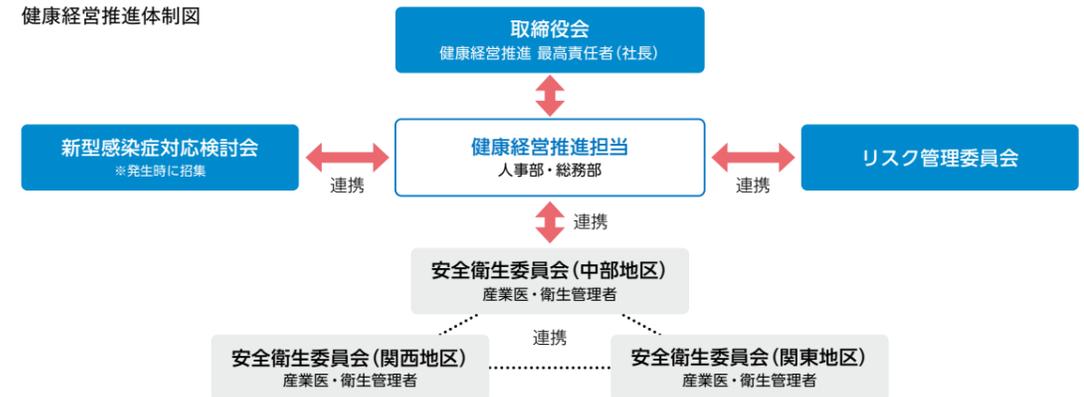
従業員の健康上の理由による欠勤・休職・退職を縮小させるだけにとどまらず、すべてのステークホルダーの幸せに貢献し、常に必要とされる存在であることをめざすため、従業員が能力を最大限に発揮できる心身の健康を保持増進するとともに、創造性や生産性の高い職場環境を実現することで、会社の持続可能な成長基盤を構築することを目的としています。

#### 健康宣言

「仲良く朗らかに元気よく働こう」の体現のために

1. 従業員の健康を重要な経営資源と捉え、安全と心身の健康を最優先する職場づくりに取り組みます
2. 会社、労働組合、従業員とその家族が一体となって健康づくりを推進していきます
3. 経営ビジョン「社会から信頼され、必要とされる存在に。」に基づき、事業活動を通じて健康づくりを支援していくことで社会に貢献していきます

健康経営推進体制図



#### 健康施策の取り組み状況

##### 復職支援プログラム

長期間療養休職している社員が復職する際は、本人の状況をみながら「ならし勤務」を導入したり、短時間勤務やテレワーク勤務を活用するなどの復職支援プログラムを作成し、復職しやすい環境づくりを行っています。

##### メンタルヘルス相談窓口を設置

日常生活における様々な不安や悩みについて、気軽に相談できる窓口を設置しています。外部の専門機関に委託し、プライバシーは厳守しています。相談は無料で、家族の利用も可能です。

##### ハラスメント相談窓口を設置

「ハラスメント防止規程」により、各種ハラスメントに関する相談・苦情などに対応する窓口を設置しています。専任の担当者がプライバシーの保護に十分務めた上で迅速に対応します。



## 人材開発・育成

竹田 i Pグループでは、社員一人ひとりがモチベーション高く困難な課題にも前向きにチャレンジができる風土の醸成をめざし、役割に応じた公正な人事・評価制度を運用するとともに、社員の能力開発と自立的な成長・挑戦を支援しています。

### 社員の成長と活躍を支える人事制度

4.4 8.5

#### 人事制度（コース等級制度・人事評価制度）

社員各人に期待する役割を基準に、一人ひとりの能力や適性にふさわしいコース・等級を格付けし、これに基づき業務遂行・能力開発・人事評価を行っています。年3回実施する面談で、目標の共有や達成に向けてのアドバイス・フィードバックを行う事で、社員の成長を後押しします。

#### マイスター認定制度

生産現場における重要かつ不可欠な技能を次世代に継承することを目的に、マイスター認定制度を設けています。マイスター認定者には、卓越技能の保持者との称号とともに、後継者の育成、生産ラインの技能レベルの向上活動などが役割として与えられます。

#### 社員表彰制度

社員の意欲向上を目的に、会社の業績に貢献した社員への「優良社員表彰」や、長年勤勉に職務に精励して社業発展に尽くした社員への「永年勤続表彰」等、会社への貢献に報いるための表彰を行っています。



山本会長と優良社員表彰者

#### 資格取得奨励制度

社員の能力向上、自己啓発促進のため、会社が定める対象資格を取得した社員に奨励金を支給し、社員の技能やモチベーション向上を図っています。

### 人材育成に関する活動

4.4 8.5

#### 階層別研修の実施

竹田印刷では、社員各人のキャリアステップに応じた階層別研修を実施しています。基本的な知識・技能を学ぶだけでなく、時代の変化に的確に対応できる柔軟性のある社員の育成をめざしています。

#### メンター制度

竹田印刷では、直属の上司以外の先輩社員が専属の育成サポート担当となり定期的に面談を行う「メンター制度」を導入しています。定期面談を通じて若手社員の課題や悩みの解決、仕事上の知識やスキル習得の支援を行っています。

#### 次世代リーダー育成「若手会」の活動

光風企画では次世代リーダーの育成を目的として若手会を組織し活動を推進しています。メンバーは30代の昇格者あるいは上司が指名した者です。活動は定例会議のほか職場の先輩・後輩と面談を行う定期相談会や中期経営計画の社内説明会などで、若手会みずからが企画し実施しています。



#### Topic | 動画を用いた社員教育を実施

##### 竹田印刷 ～「竹田アカデミー」の開催～

竹田印刷では、多様化するお客様のニーズにお応えするため、販売担当者のスキルアップを目的に社内イントラネットを活用した教育コンテンツの配信を行っています。配信内容は、サービス・企画提案に関するものから、営業スキル、基本リテラシーなど多岐にわたります。



##### プロセス・ラボ・ミクロン ～動画によるOJT教育～

プロセス・ラボ・ミクロンでは、2022年度より製造部門において、動画を用いたOJT教育を導入しました。作業手順を動画にすることでミス削減や多能工化の促進に繋がるとともに、教育担当者の負担が軽減すると考えています。今後は適用範囲を広げて業務効率の向上に繋がります。



## サプライヤーの皆様とともに

高品質な製品を提供するためにはサプライヤーの皆様が不可欠です。サプライヤーの皆様とは対等で公正な取引のもと、技術・情報の相互交流などによる信頼関係を基本として良好なパートナーシップを構築し、品質向上・環境対策・コスト削減といった共通の目的・目標に対して改善策を推進して共存共栄をめざしています。

### パートナーシップ構築宣言

8.5 17.16 17.17

「パートナーシップ構築宣言」は、サプライチェーンの取引先や価値創造を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を進める事で、新たなパートナーシップを構築することを、「発注者」側の立場から企業の代表者の名前で宣言するものです。竹田 i Pホールディングスは「パートナーシップ構築宣言」に則り、持続可能なサプライチェーンを構築するとともに、よりよい社会の実現に貢献いたします。詳しくは当社ホームページをご覧ください。



[https://www.takedaip-hd.co.jp/sustainability/partnership\\_building\\_declaration/](https://www.takedaip-hd.co.jp/sustainability/partnership_building_declaration/)

### サプライヤーの皆様との関係

7.3 8.5 9.4 17.16

当社グループの事業活動および社会的責任の遂行には、お取引いただいているサプライヤーの皆様のご協力が不可欠です。用紙・インキ・フィルム・ガラス・スクリーンメッシュなどの資材や印刷機器、印刷・製本加工などを取り扱う様々なサプライヤーの皆様との間で、「CSR調達ガイドライン」を定めており、当社グループが積極的に順守するとともにサプライヤーの皆様にも順守していただくようお願いしています。この調達ガイドラインに基づき、「購買および外部提供者管理規定」を設け、公正に審査・選定・管理をし、適正な購買・取引を行うよう努めています。

また、第三者の知的財産の不正な入手・使用、権利の侵害を行わないよう「素材ダウンロードサービス利用マニュアル」を作成し、事前にチェックする仕組みを構築しました。

外部デザイナーの皆様に対して、運用ルールを説明し、知的財産権に対する注意喚起を行っています。

#### －竹田 i PグループCSR調達ガイドライン（項目のみ抜粋）－

竹田 i Pグループとそのサプライヤー・パートナーは、以下の事項を順守し、企業の社会的責任（CSR）を果たしていきます。

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1. コンプライアンスの順守 | 5. 適切な情報処理     |
| 2. 基本的人権の尊重    | 6. QCDと顧客満足の上昇 |
| 3. 環境保全        | 7. 腐敗防止        |
| 4. 安全衛生        |                |

詳しくは当社ホームページをご覧ください。

[https://www.takedaip-hd.co.jp/sustainability/csr\\_procurement\\_guidelines/](https://www.takedaip-hd.co.jp/sustainability/csr_procurement_guidelines/)

### リスクマネジメントの強化

17.17

竹田印刷ではリスクマネジメントの強化として2020年に取引基本契約書と機密保持契約書の見直しを行い、改めて全協力会社と契約の締結を行いました。また、2022年4月には委託先登録の際に必要な書類や評価ポイントなどを見直しました。

### サプライヤー評価

17.17

竹田印刷では、納入品の適正な品質を確保するため、サプライヤーの皆様に対して、対応、コスト、品質、情報セキュリティ体制などに関して年1回チェックシートを使った評価を実施して、竹田印刷の基準を満たしていることを確認しています。

また、必要に応じ品質管理部門や発注部門がサプライヤー様を訪問して現地での工程監査を行い、業務の見直しや改善要望を提示。情報セキュリティ体制に関しては、確認

内容を説明し、実施を依頼しました。

また、未然に品質事故を発見し、不適合品の流出を防ぐなど、品質維持に協力頂いたサプライヤー様に、感謝の意を表し感謝状を送るなど、ビジネスパートナーとして品質改善に取り組んでいます。

サプライヤーの皆様との品質管理は、竹田印刷の品質管理の一部と考え、これからもサプライヤーの皆様とともに品質向上に取り組んでいきます。



## 環境活動

紙媒体とデジタル媒体の融合を推進し、事業活動における環境負荷低減と限りある資源の有効活用に努めています。また、生物多様性および生態系の保護を含めた環境保全のため、原材料、省エネルギー、大気への排出、排水および廃棄物などについて、TMS(竹田マネジメントシステム)の活動として管理し、環境汚染の予防に努めています。

### マネジメントシステムの状況

#### ISO14001認証取得

12.4 12.5

	竹田印刷(株) 竹田iPホールディングス(株)	日栄印刷紙工(株)	竹田東京プロセスサービス(株)	(株)プロセス・ラボ・ミクロン
認証取得日	2000年12月25日	2015年11月2日	2004年7月16日	2005年6月28日
認証登録番号	07965-B		12915-B	09147

#### 監査の状況

6.3 7.3 8.4 9.4 11.6 12.4 13.3 14.1 15.2

実施項目	内部監査	内部監査員に対する 研修会	内部監査 (2022年度) 「不適合」	内部監査 (2022年度) 「観察事項」 「改善の機会」	外部審査 「特定された 改善の機会」
竹田印刷(株) 竹田iPホールディングス(株)	年2回	年1回	3件	97件	4件
日栄印刷紙工(株)	年2回	年2回	2件	13件	未実施 <sup>※2</sup>
竹田東京プロセスサービス(株) <sup>※1</sup>	年1回	都度外部研修を実施	6件	19件	5件
(株)プロセス・ラボ・ミクロン	年1回	年1回	3件	22件	4件

※1 2022年度は持株会社移行前のため、名古屋本社分のデータは竹田印刷のデータに含まれます。 ※2 2年に1回の実施となるため、2022年度は未実施となります。

#### 全社員教育の状況

4.4 13.3

TMS(竹田マネジメントシステム)の効果的な運営を図るために、全社員に対して次のような教育を行っています。

##### 2022年度の主な教育実施内容

- テキストでの教育の後、理解度テストを行うことで教育効果を確認し、「教育実施記録」を保持しています。
- ☑ FSC®(CoC) 認証の内容の再確認
- ☑ ISO外部審査での指摘事項
- ☑ TMS文書の理解
- ☑ 職場におけるハラスメント
- ☑ 個人情報保護
- ☑ サステナビリティ方針とSDGs
- ☑ 内部監査の目的等の再確認
- ☑ LGBTQ理解促進

### 環境保全の状況

#### 取水によって著しい影響を受ける水源

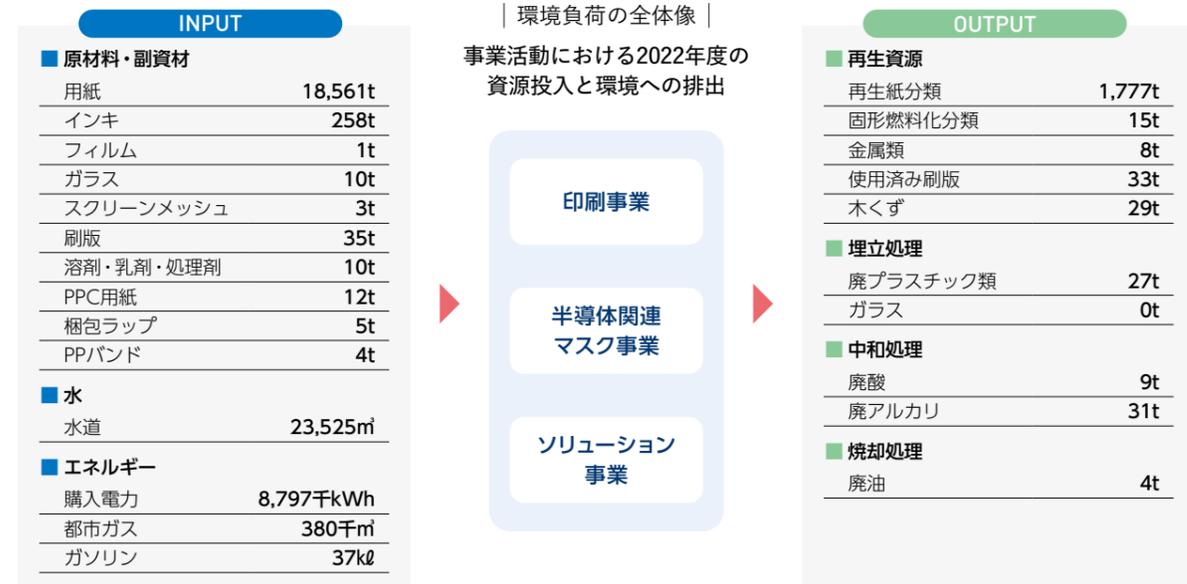
6.1

竹田印刷は、事業を行う上で必要な水をすべて「水道」から取水し使用しています。地下水の揚水はなく、当社の事業活動における取水によって著しい影響を受ける水源はありません。

### 法規制の順守

3.4 6.3 7.3 11.6 12.5 14.1 15.2

竹田iPホールディングスおよび竹田印刷では、環境に関する法規制を順守し環境汚染をできる限り少なくすることは企業の重要な責務との認識のもと、法的要求事項への対応実施・維持の状況を順守状況一覧表によりチェックし、順守の徹底を図っています。また、環境関連法令に従い、必要に応じて管理者を設置し、管理報告を行っています。工場から排出される臭気に関して近隣の方からの苦情が発生いたしましたが、臭気を抑える応急処置を行い改善しました。今後は、脱臭装置の交換を進めてまいります。



#### プロセス・ラボ・ミクロン 有価物排出量(2022/4~2023/3)

ステンレスやニッケルの廃材を有価物として再利用しており、廃棄物量の削減を推進しています。

	関東	九州	中部	合計(kg)
ステンレス廃材 <sup>※1</sup>	4,541	1,740	10,580	16,861
ニッケル廃材 <sup>※2</sup>	58	420	1,440	1,918
アルミ廃材 <sup>※3</sup>	1,368	350	2,020	3,738
廃フィルム <sup>※4</sup>	1,594	741	-	2,335

※1 レーザ加工メタルマスク製造時の端材、ADTメタルマスク製造時のニッケルめっき母材、回収メタルマスクの廃棄品  
 ※2 ADTメタルマスク製造時の端材、テスト品(条件出し用)  
 ※3 ホルダ製造時の端材、メタルマスク用枠の廃棄品  
 ※4 エッチング加工メタルマスク製造用、メタルマスク検査用などのLPPフィルム

### 気候変動リスクへの対応

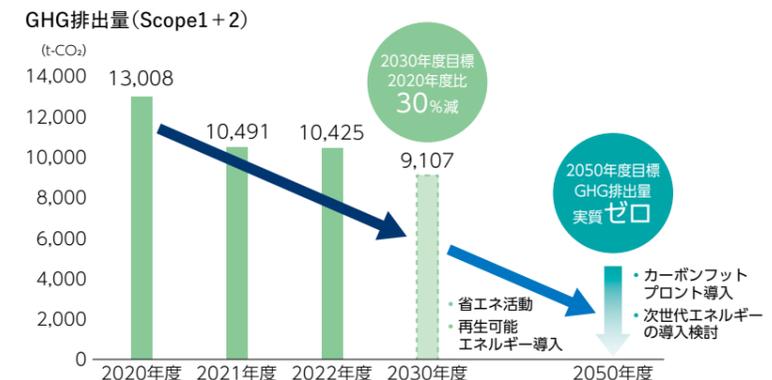
13.2

サステナビリティ経営を実践する上で、「気候変動リスク」は優先的に取り組むべき課題として認識しております。

中長期的な課題として、カーボンプライシングの導入による操業コストの増加や温室効果ガス(GHG)排出規制の強化による対応コストの増加などの移行リスクが生じる可能性が見込まれます。また、異常気象の激甚化による操業停止や気候変動による材料調達コストの増加などの物理的リスクが生じる可能性も見込まれます。

なお、当社国内連結グループ合計の温室効果ガス(GHG)排出量(Scope 1、Scope 2)は、2020年度13,008t-CO<sub>2</sub>→2021年度10,491t-CO<sub>2</sub>(前年度からの削減量2,517t-CO<sub>2</sub>、同削減率19.3%)→2022年度10,425t-CO<sub>2</sub>(前年度からの削減量66t-CO<sub>2</sub>、同削減率0.6%)となっております。

今後はサステナビリティ推進に向けた体制の整備を進めるとともに、2020年度比にて2030年度は30%削減、そして2050年度には温室効果ガス(GHG)排出量実質ゼロという定量的な目標を設定し、カーボンニュートラルの実現をめざしてまいります。



## 地域の環境保全条例と政策への対応

3.9 7.3 11.6 12.4 13.1

竹田印刷は、各地方自治体の条例に基づき、地球温暖化対策に関する計画書などを作成し、各地方自治体に提出しています。

## 竹田 i P グループ環境方針



竹田 i P グループは、企業理念「持続可能な社会に貢献すべく、溢れるほどの情熱 (passion) をもって、革新 (innovation) しつづける」を実現するために、すべての社員がとるべき行動を示した「竹田 i P グループ行動規範」を定めています。この「竹田 i P グループ行動規範」において「環境保全」の考えを明記しています。

そして、私たちの使命である「お客様の課題解決を通じて広く社会に貢献する」ために、「竹田 i P グループ環境方針」をここに定め、持続可能な社会を実現するために、事業活動と環境保全の両立をめざします。

### 竹田 i P グループ環境方針 (項目のみ抜粋)

- |            |              |
|------------|--------------|
| 1. 適用法令の遵守 | 6. 生物多様性の保全  |
| 2. 気候変動の緩和 | 7. 環境負荷低減の提案 |
| 3. 環境汚染の予防 | 8. 推進体制      |
| 4. 資源の有効活用 | 9. 情報開示      |
| 5. 水資源の保全  |              |

詳しくは当社ホームページをご覧ください。  
[https://www.takedaip-hd.co.jp/sustainability/environmental\\_policy/](https://www.takedaip-hd.co.jp/sustainability/environmental_policy/)

## 環境保全活動の推進

### 化学物質管理

3.9 12.4 14.3

竹田印刷・竹田東京プロセスサービスは、「化学物質リスクアセスメント規定」を定め、自主的な適正管理や安全性の高い代替物質への転換を促進するとともに、化学物質による労働災害の防止や廃棄物の拡散防止に努めています。またプロセス・ラボ・ミクロンでは、新規材料の採用時、SDS (安全データシート) の入手や規制法令等の確認などを行い、管理台帳に登録のうえ使用しています。

### 工場排水処理策と測定状況

3.9 6.3 14.3

竹田印刷・竹田東京プロセスサービス (名古屋本社) は、排水量に関しては測定していませんが、水質について、PH (水素イオン濃度)、BOD (生物化学的酸素要求量)、SS (浮遊物質)、金属含有量、有害物質などの項目を年2回測定し、法規制値より厳しい自主管理値を設定し徹底管理。管理値以内であることを確認した上で、下水道に排水しています。

プロセス・ラボ・ミクロンでは、排水については年4回、自主分析で管理状況を監視すると共に、行政による定期水質検査を受けています。

### 騒音・振動の予防策と測定状況

3.9

竹田印刷は、騒音・振動を防止するために、印刷工場は建築設計の段階から二重壁・二重窓構造にし、内壁には吸音材を使用した防音対策を施しています。騒音の測定記録については、全時間帯において規制基準値を下回りました。日栄印刷紙工でも、年1回の測定を行っています。

プロセス・ラボ・ミクロンでは、規制対象であるエアコンプレッサーがありますが、静音タイプを選定、設置方法や設置場所の改善により規制基準をクリアしました。

### 排出ガスの予防策と測定状況

3.9 11.6

竹田印刷は、大気汚染防止法のばい煙発生施設に該当しているオフセット輪転機の乾燥装置は、年2回の排出ガス測定を実施しており、法規制値より厳しい自主管理値を設定し徹底管理を行っています。また東京都環境局が推進する「Clear Sky サポーター」に登録し、大気環境の改善に向けた取り組みを進めています。

プロセス・ラボ・ミクロンでは、アスベスト対策を実施。また社用車の排ガス対応として「排ガス抑制の実手順書」を制定しています。



## 廃棄物の管理・運営

3.9 6.3 11.6 12.4 14.1

竹田印刷・竹田東京プロセスサービス・日栄印刷紙工は、「環境側面特定管理規定」を定め、それぞれ種類別に保管し、管理方法を決めています。特に特別管理産業廃棄物は、水質汚濁や土壌汚染を招かないように厳しく管理しています。また年に1回以上、産業廃棄物処理業者への立入り調査を行い、処理が適正に行われているかを目視により確認しています。

プロセス・ラボ・ミクロンでは、特別管理産業廃棄物の管理・行政届出、PRTR法に基づく対象物質の行政届出を実施しております。

## 緊急時への準備対応

3.9 11.6 12.4 14.1

### 事故・緊急事態に対する対策

竹田印刷では、事故・緊急事態の可能性として「火事・爆発・漏えい (大気・水系・土壌) など」を想定し、発生した場合の環境への重大な影響 (大気汚染・水質汚濁・土壌汚染など) を防ぎ、迅速に対応・処置するために「不適合及び緊急事態対応管理規定」を定めています。その中で、予防・初期処置および対処に必要な設備・防災備品の設置のほか、連絡網の明示・模擬訓練の実施・発生時の基本行動などについて定めています。

### 2022年度事故・緊急事態

2022年度における重大な事故・緊急事態は発生していませんが、2023年6月15日の夜間、プロセス・ラボ・ミクロンの九州工場にて、廃液が構外へ流出する事故が発生いたしました。今後は行政機関の指示に従うとともに、再発防止対策を徹底してまいります。

## FSC® CoC 認証 ~ Forest Stewardship Council® (森林管理協議会) ~

15.2 15.4

竹田印刷および日栄印刷紙工は、FSC® CoC 認証を取得しています。  
 〈竹田印刷〉ライセンスコード: FSC-C011109 認証取得日: 2004年8月12日  
 〈日栄印刷紙工〉ライセンスコード: FSC-C152770 認証取得日: 2019年12月1日  
 すべてがFSC® 認証品ではありません。FSC製品についてはお問合せ下さい。  
 FSC® は、森とそこに暮らす人や生物を大切にすることをお手伝いをします。



## 竹紙の提案

6.3 15.1 15.2 15.3

里山を荒らすことから、いまや「竹害」とまで言われる竹。その竹を持続的に大量に使うことで社会的課題の解決を図ります。針葉樹パルプと広葉樹パルプの中間的性質をもつ竹パルプは、印刷用紙から産業用紙まで幅広く活用できます。本CSRレポートも、全ページ竹紙を使用しております。このようなできるだけ環境に負荷をかけない紙をお客様にお勧めし、お客様自身の環境負荷低減に寄与してまいります。



## 省エネ対策

6.6 7.1 7.2 9.4 11.6

東海プリントメディアの清須工場では、当社グループ初の取り組みとして太陽光発電設備のオンサイトPPAモデルを導入し、2023年9月より運用開始します。

またプロセス・ラボ・ミクロンでは、2023年9月の完成を目標に本社・川越工場 (埼玉県川越市) の建て替えを実施しており、省エネ対策として以下を実施・導入予定です。

- ・二重屋根 (断熱材充填) ・ 複層ガラス (遮熱Low-E)
- ・ LED照明 ・ 節水便器
- ・ キュービクトップランナー変圧器  
 (トップランナー: 省エネ法の省エネ目標基準を定める「トップランナー方式」に由来。省エネ法の指定するエネルギー消費効率を、現在商品化されている製品のうち、最も優れている製品の性能以上にするという考え方。)
- ・ 熱交換型換気扇 ・ シックハウス24時間天井換気扇 DCブラシレスモーター仕様



プロセス・ラボ・ミクロン 本社・川越工場 完成予定図